

B ミズトラノオ シソ科

2009	B
2017	A
2023	B

Eusteralis yatabeana (Makino) Murata

【種の特性】多年生草本。湿地に生える。葉は単葉で3～4輪生。虫媒で水散布。地中に横走る地下茎がある。虫媒で水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】成田市、東金市、香取市、東金市、多古町、市原市、茂原市、富里市、市川市などで記録されているが一部はミズネコノオの誤認のおそれがある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。特に水質・水位の維持が大切である。

【文献】新千植誌 1975：376. / 千植誌 2003：502,498

【写真】1953.9.21 長生村 標本：CBM
BS-191165

(大場達之／天野誠)



B ヒメハッカ シソ科

2009	B
2017	A
2023	B

Mentha japonica (Miq.) Makino

【種の特性】中形の多年生草本。茎は直立し枝分かれが少なく高さ20～40cm。葉は単葉で対生し卵状長楕円形。花は8～10月。茎の頂上に散状につき、淡紅紫色。虫媒で重力散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】湿地にスゲ類などに混じって生える。九十九里低地、習志野湿地（消滅）などから採集されているが、普通ではない。

【保護対策】湿原の保全。

【文献】千植誌 2003：504, 500

【写真】1927.10.5 山武市 標本：
CBM BS-25736

(大場達之／天野誠)



B ヤマジソ シソ科

2009	C
2017	C
2023	B

Mosla japonica (Benth.) Maxim.

【種の特性】一年生草本。痩せた土地の芝生、あるいはススキ草原のなかの小裸地などに群れて生える葉は単葉で対生。[Th] 葉は単葉で対生。[H] 虫媒で重力散布。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】。かつての牧には多かったと推定される。下総台地で記録されているが、稀である。

【保護対策】半自然のススキ草地を維持管理することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：501, 497

【写真】1974.12.19 三重県 標本：CBM BS-205525
(大場達之／天野誠)



B ヒキオコシ シソ科

2009	C
2017	A
2023	B

Rabdosia japonica (Burm.) H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。ブナ帯要素。[H] ススキ群目。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】関東地方では山麓などに普通であるが、千葉県では少ない。かつての牧に多く見られた可能性がある。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003：492, 495

【写真】1968.10.10 富津市 標本：CBM BS-332511



(大場達之／天野誠)



B イヌタヌキモ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Utricularia australis R.Br.

【種の特性】浮遊性の一年生草本。葉は羽状複葉で対生。タヌキモに極めて似ているが、冬芽の鱗片に棘状の毛が多い。虫媒で水散布。[Th] ウキサ群網。

【分布】本州・四国・九州。

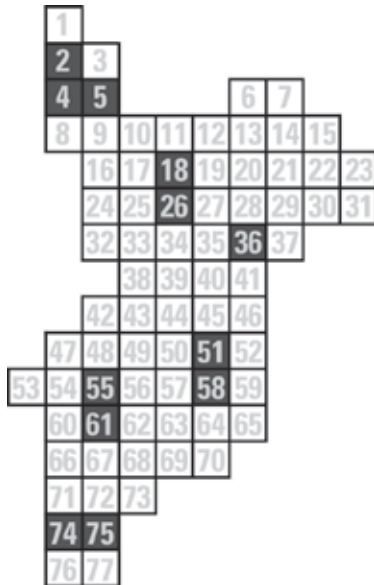
【県内の状況】タヌキモとの区別が微妙で、冬芽がないと確実な同定が困難なので分布の実態はあきらかではないが、タヌキモよりは多いと考えられる。

【保護対策】水田周辺などの水たまりなどを生物多様性維持のために保全する。

【文献】千植誌 2003：546,549

【写真】2004.6 宮城県 大場達之

(大場達之／天野誠)



B ミミカキグサ タヌキモ科

2009	B
2017	A
2023	B

Utricularia bifida L.

【種の特性】小形の多年生草本。湿地のわずかに水で潤されている裸地に群れて生える。葉は単葉で互生。花は7～10月に咲き黄色。虫媒で水散布。[HH] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】成東・東金食虫植物群落、茂原市～長生村に多く見られたが現在では激減している。習志野市、佐原市などいくつかの既知の産地では絶滅している。

【保護対策】自然的な湿地を保護する。観賞用などでの採集を禁止する。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1979
Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9: 179-184 / 千植誌 2003：545, 549

【写真】山武市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B ホザキノミミカキグサ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Utricularia caerulea L.

【種の特性】小形で食虫性の多年生草本であるが一年生草本として生育する場合がある。湿地に生える。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

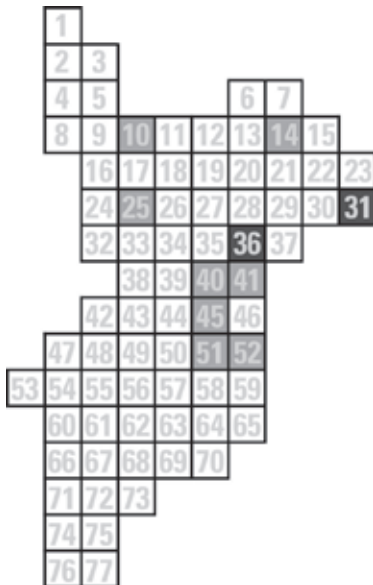
【県内の状況】九十九里浜平野に知られる。習志野市でみられたものは絶滅した。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。遷移が進行すると消失するので、遷移の初期～中期段階を保持することが大切である。

【文献】小滝一夫 1950 習志野の湿地植物。船橋高校生物クラブ研究報告誌 3 :

22-27 / Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 192-195 / 千植誌 2003 : 544, 549

【写真】1990 山武市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ムラサキミミカキグサ タヌキモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Utricularia uliginosa Vahl

【種の特性】小形で食虫性の多年生草本。葉は単葉で互生。湿地に生える。虫媒で水散布。[HH] ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。花の白い品種をシロバナミミカキグサ form. albida (Makino) H.Hara という。

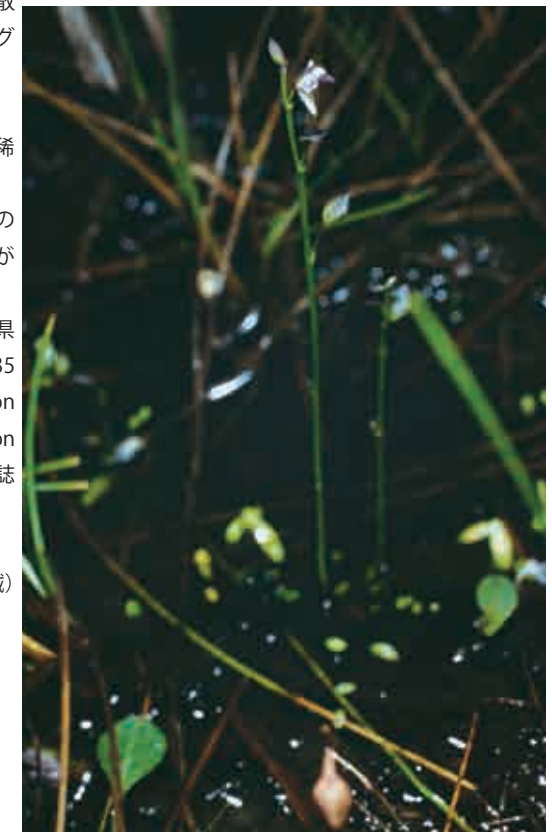
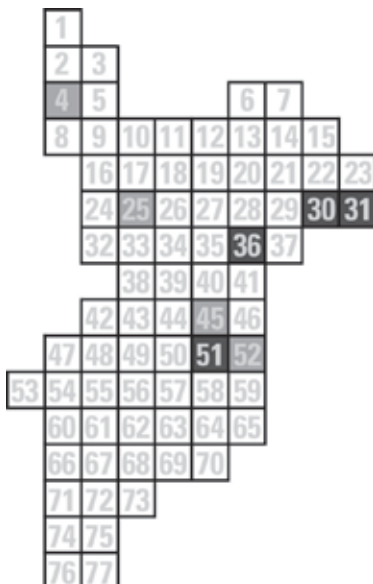
【分布】北海道・本州・四国・九州。オーストラリア。

【県内の状況】九十九里浜平野と銚子市から知られる。成東・東金食虫植物群落でも稀である。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。遷移が進行すると消失するので、遷移の初期～中期段階を保持することが大切である。

【文献】小滝一夫・大賀宣彦 1975 千葉県の食虫植物群落の生態。新千植誌 : 115-135 / Komiya, S. & C. Shibata 1979 Distribution of the Lentibulariaceae in Japan. Bull. Nippon Dent. Univ. Gen. Educ. 9 : 192-195 / 千植誌 2003 : 545, 549

【写真】1990 山武市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B トネリコ モクセイ科

2009	
2017	A
2023	B

Fraxinus japonicus Blume ex K.Koch

【種の特性】落葉性高木。高さ15mに達する。対生する葉は、羽状複葉。小葉には、4から10mmの柄があり、鋭尖頭、鋸歯がある。花には、花冠がない。虫媒で、風散布。花期は、4月～5月。落葉樹林に生育する。ハンノキ群目。

[MM]

【分布】本州。

【県内の状況】船橋市で2000年5月16日に採集された標本（CBM BS-180025）と松戸市で1988年6月7日に採集された標本（CBM BS-140424）と山武市で1932年10月26日に採集された標本（CBM BS-519）がある。目視記録としては、流山市、君津市、鋸南町、大多喜町の記録がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌1958:339／新千植誌1975:384／千植誌2003:447／改訂新版日本の野生植物5 2017:62

【写真】1988.6.7 松戸市 標本：CBM BS-140424

(天野誠)



B オオナンバンギセル ハマウツボ科

2009	C
2017	C
2023	B

Aeginetia sinensis G.Beck

【種の特性】寄生性の一年生草本。葉は無葉緑。虫媒で、風散布。[Th]トダシバーススキ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】県内では8ヶ所で記録されている。ナンバンギセルとの混同があると考えられる。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌2003：543

【写真】1948.7.28 鴨川市 標本：CBM BS-167998

(大場達之／天野誠)



B ゴマクサ ハマウツボ科

2009	B
2017	B
2023	B

Centranthera cochinchinensis (Lour.) Merr. subsp. *lutea* (H.Hara) T.Yamaz.

【種の特性】一年生草本。貧栄養な湿地に生える。葉は単葉で対生。茎は直立し高さ 20～40cm で斜上する堅い毛がある。花は 8～10 月に咲き淡い黄色。虫媒で風散布。[Th] ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】九十九里平野、習志野市などに記録されているが現在は少ない。

【保護対策】貧栄養な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003：536, 527

【写真】2000.8.28 長生村 谷城勝弘

(大場達之／天野誠)



B ハンカイシオガマ ハマウツボ科

2009	B
2017	B
2023	B

Pedicularis gloriosa Bisset & S.Moore

【種の特性】中形の多年生草本。暗い湿った林に生える。葉は単葉で対生し羽状に深く切れる。花は 8～10 月。茎は斜上し先端付近に紅紫色の花を集めつける。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】本州（関東、中部）。

【県内の状況】房総丘陵に見られるが少なくなっている。

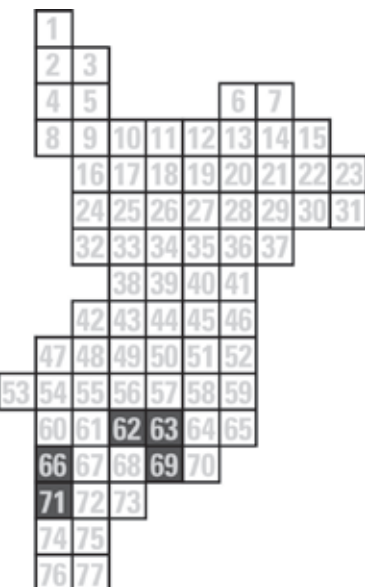
【保護対策】観賞用などでの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003：537, 527

【写真】2002.10.04 鋸山

大場達之

(大場達之／天野誠)



B シオガマグク ハマウツボ科

2009	B
2017	A
2023	B

Pedicularis resupinata L. var. *oppositifolia* Miq.

【種の特性】夏緑の半寄生性の多年生草本。ススキなどによりかかって生える。葉は単葉で対生。花は9～10月に咲き濃い紅紫色。虫媒で風散布。
[H] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリア、極東ロシア。

【県内の状況】ススキ草地の衰退により著しく少なくなっている。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。また観賞用などでの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003：537, 527

【写真】2007 山梨県 大場達之

(大場達之／天野誠)



B マルバノサウトウガラシ オオバコ科

2009	B
2017	B
2023	B

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

【種の特性】小形の一年生草本。千葉県での記録はいずれも水田で、サウトウガラシと共存する。茎は上部に腺毛があり、高さ3～10cm。葉は対生し葉柄がなく広卵形。花は7～9月に咲き淡紫色。虫媒で水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。済州島。

【県内の状況】新千植誌 1975 では成田市の記録があるが、稲刈り後の水田を綿密に調べることににより、佐倉市、長南町でも発見することができた。かつては広く分布していたと考えられる。

【保護対策】種子を自宅の水盤にまいたところ5年以上に亘って継続生育したので、生育条件に特別の要求のある植物とも思えない。自

家用米の水田など農薬の散布を制限した水田に見られることから、減農薬水田を維持することを望みたい。

【文献】新千植誌 1975：372 / 千植誌 2003：538, 528

【写真】1999.9.13 佐倉市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B フジウツギ ゴマノハグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Buddleja japonica Hemsl.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。やせた河原、切り通しなどに先駆的に現れる。[N] ニシキウツギーヤシャブシ群群網。

【分布】本州・四国。

【県内の状況】ブナ帯に分布の中心のある種類で丹沢山地などでは普通であるが、房総半島では希である。

【保護対策】生育地の保全。林道法面などの過剰なコンクリート吹きつけをやめる。

【文献】千植誌 2003：524, 516

【写真】2000.6.8 大多喜町 CBM BS-252495

(大場達之／天野誠)



B オオヒナノウスツボ ゴマノハグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Scrophularia kakudensis Franch.

【種の特性】大形の多年生草本。茎は4稜形で直立し高さ2mに達する。葉は単葉で対生し三角状長楕円形。花は8～10月。茎の先に集まって大きな円錐状花序をなし、花はゆがんだ壺状。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】河川敷などの湿った草原に知られてきたが少なくなっている。

【保護対策】河川敷の少なくとも一部を自然に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：536, 526

【写真】(右) 1990.8.16 東金市 標本：CBM BS-83569, (左) 2001.9.15 東金市 福田洋

(大場達之／天野誠)



B アオイゴケ ヒルガオ科

Dichondra micrantha Urb.

2009	
2017	B
2023	B

【種の特性】小型の多年生草本。匍匐して繁茂する。高さは2cmから5cmになる。葉は円形で心形。花柄は湾曲して下を向く。花冠は5裂する。雄蕊は5本、雌蕊は2裂する。果実は球形で2つ並んで着く。虫媒で、重力散布。花期は、4月から8月。明るい裸地に生育する。ダイコンドラの名前で、カリリナアオイゴケがグランドカバー植物として、栽培されていて、識別が困難である。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。世界の亜熱帯・熱帯。

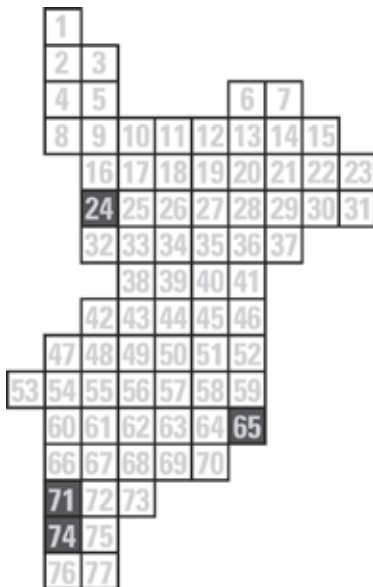
【県内の状況】主に東京湾の海岸と南房総の海岸に分布している。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:432 / 千植誌 2003:479

【写真】1999.5 館山市 標本:CBM BS-316553

(天野誠)



B ヤマホロシ ナス科

Solanum japonense Nakai

2009	C
2017	C
2023	B

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】社寺などの林に生えるが、個体数は少ない。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 518, 512

【写真】1996.11.6 大多喜町 標本:CBM BS-175292

(大場達之／天野誠)



B イヌムラサキ ムラサキ科

2009	
2017	B
2023	B

Lithospermum arvense L.

【種の特性】 中型の一年生草本。根に紫の色素を含まない。高さ 20～50cm。茎には剛毛が多い。葉は、長楕円形で無柄、長さ 2～4cm。花は直径 3～4mm、喉部に鱗片がない。果実は灰色で光沢がない。虫媒で、重力散布。花期は、4月から6月。乾いた草地に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。ユーラシア、北アフリカ。

【県内の状況】 在来の系統と帰化の系統がある。保護すべきは前者である。八千代市などの草地に生えるものは、在来の系統と思われる。

【保護対策】 生育地を見極め、在来の系統の生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：477 / 角野康郎
1994 日本水草図鑑：17 / 千植誌 2003
643,657

【写真】 1993.4.23 八千代市 標本：CBM
BS-129556

(天野誠)



B ルリソウ ムラサキ科

2009	B
2017	B
2023	B

Omphalodes krameri Franch. & Sav.

【種の特性】 高さ約 25 cm の夏緑の多年生草本。やや湿った明るい林床に生える。葉は地表にロゼット状に広がる。茎はほぼ直立し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は 2 つに分枝する。花冠は水色、花筒は短い、径約 7 mm で、喉部に白い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ楕円形球、背面の凹みの周囲に刺がある。虫媒で付着散布。適湿で肥沃な夏緑林の林床に生える。ブナ群綱。[H]

【分布】 北海道・本州。

【県内の状況】 1997 年に山武市と佐倉市で確認されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。生育環境は段丘下部の極めて限られたところなので立ち入りを控えることが望ましい。

【文献】 川名興・伊藤哲夫 1979 冬虫夏草 14 / 千植誌 484, 473

【写真】 1996.5.7 佐倉市 大場達之
(大場達之 / 天野 誠 追補)



B マルバチシャノキ チシャノキ科

2009	C
2017	C
2023	B

Ehretia dicksonii Hance

【種の特性】 高さ約3～4m程度の夏緑の高木。海岸部の林縁や急な崖に生える。枝は灰褐色で、樹皮は荒く割れる。葉は互生、広卵形で、鈍頭、基部は円形で、有柄、長さ約14cm、鋸歯縁で、硬い毛がある。枝先に散房花序を付ける。花は5数性。萼片は広披針形で、長さ約3mmで、短い萼筒がある。花冠は、星形で、白色で、径約10mm。雄しべは萼筒の先に癒合し、花糸は約5mm、柱頭は2裂し、心皮は合生。果実は球形の核果で、径6～8mm、黄熟する。萼と花柱は宿存する。虫媒で、鳥散布。[MM]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】 鴨川市に知られ、付近では植えられたものもある。

【保護対策】 生育地の保全。種子からはよく芽生えるので、生育環境を保全すれば存続は容易である。

【文献】 浅野貞夫 1950 マルバチシャノキ房総南部に自生す。

採集と飼育12(9):
286-287. / 千植誌
2003: 482,472

【写真】 2005.6.12

鴨川市 福田洋
(大場達之/天野 誠
追補)



B オカダイコン キク科

2009	
2017	D
2023	B

Adenostemma madurense DC.

【種の特性】 多年性草本。高さ、30～150cm。葉は対生し、8対～12対。卵形で、葉身の長さは、10～30cm。多数の白い筒状花を付けた頭花を散房状に付ける。そう果は倒披針形で、腺点がある。花期は、7月～8月。虫媒で重力散布。湿った林縁に生育する。[H]

【分布】 本州・四国・九州。台湾、中国、東南アジア、南アジア。

【県内の状況】 主に安房の丘陵部に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 大場達之 2010 千植誌資料 26:24 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 365

【写真】 2012.10.21 君津市 標本: CBM
BS-380843

(天野誠)



B ヤマハハコ キク科

2009	C
2017	C
2023	B

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. & Hook.f. var. *angustior* (Miq.) Nakai

【種の特性】多年生草本。乾いて裸出した路傍などに見られる。茎は高さ 30～50cm。葉は単葉で互生し線状披針形、密に白い蜘蛛毛をかぶり、全体が白く見える。花は 9～10 月に咲き、花序は散房状で多数の頭花が密に集まる。総苞は乾膜質で白色。虫媒で、風散布。オニシモツケーオオイタドリ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、サハリン、千島、カムチャッカ。

【県内の状況】主として県北部に点々と記録があるが、造成地などの攪乱された裸地に生えることが多い。関東山地から風で飛来した種子にもとづく偶生である可能性がある。ブナ帯からの飛来要素か。

【保護対策】自生地の環境を維持する。

【文献】千植誌 2003：603, 606

【写真】1992.7.30 富里市 標本：CBM BS-61934

(大場達之／天野誠)



B カワラヨモギ キク科

2009	
2017	C
2023	B

Artemisia capillaris Thunb.

【種の特性】中型の多年性草本。下部は木質化して、亜低木になる。花を付けない茎はロゼット状になる。植物体は、白い絹毛に覆われている。花茎の葉は、1 から 2 回羽状に全裂する。花序は円錐状。頭花は、球形で長さ 1.5 から 2mm。[Ch]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、ウスリー。

【県内の状況】主に内房から外房までの海岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:310 / 新千植誌 1975:353 / 千植誌 2003:619 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:330

【写真】2007.4.28 館山市 標本：CBM BS-290263

(天野誠)



B イヌヨモギ キク科

2009	
2017	B
2023	B

Artemisia keiskeana Miq.

【種の特性】 中小型の多年性草本。茎は高さ 30～80cm、花時、下の葉は枯れている。花の咲かない茎はロゼット状である。葉は広いさじ形で、大きな鈍鋸歯がある。総状円錐花序に下向きに多数の頭花を付ける。風媒で、風散布。花期は、8月～10月。乾いた丘陵の斜面に生育する。ススキ群綱。[H]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 富津市で 2007 年 9 月 22 日 (CBM BS-263120) に採集された標本と鋸南町で 1958 年 7 月 20 日 (CBM BS-9152) と富津市で 1994 年 5 月 26 日 (CBM BS-276072) に採集された標本がある。

【文献】 千植誌 1958 310 / 新千植誌 1975:353 / 千植誌 2003:618 / 改訂新版 日本の野生植物 5 2017:330

【写真】 2006.9.25 富津市 標本: CBM BS-285607

(大場達之 / 天野誠)



B ヒメシオン キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Aster fastigiatus Fisch.

【種の特性】 夏緑多年生草本。茎は直立し高さ 30～100 cm。根生葉は花時には枯れている。葉は単葉で互生し線状披針形。花は 8～10 月に咲き、頭花は散房状に密に集まりつく。舌状花は白色。虫媒で風散布。[G] ヨシ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、プリモリア。

【県内の状況】 主に県の中～北部の湿地に記録されているが、鴨川市にも知られている。湿原の開発で少なくなっている。

【保護対策】 自然度の高い湿原を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 598, 585

【写真】 1963.10.20 香取市 標本: CBM BS-12326

(大場達之 / 天野誠)



B サワシロギク キク科

2009	B
2017	A
2023	B

Aster rugulosus Maxim.

【種の特性】夏緑多年生草本。茎は高さ 30～50 cm。葉は単葉で線状披針形、互生し堅く折れやすく、下面は白色を帯びる。花は 8～10 月に咲き、頭花はまばらに茎の上部につき、舌状花は白色または、花の終わりの頃やや紅色を帯びる。虫媒で水散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の湿地に見られるが、湿地の開発で著しく少なくなっている。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：598, 585

【写真】1972.9.10 長生村 標本：CBM BS-13792

(大場達之／天野誠)



B キクタニギク キク科

2009	C
2017	C
2023	B

Chrysanthemum seticuspe (Maxim.) Hand.-Mazz. f. *boreale* (Makino) H.Ohashi & Yonek.

【種の特性】夏緑多年生草本。葉は単葉で互生。茎は斜面などに倒れて垂れ下がるが多い。虫媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】かつての自生地では、ほとんど失われているが、最近道路法面などの緑化のための混合種子に混じって、中国あるいは韓国産の系統が入り込んでいる。これは種としては同一であるが、遺伝的には別系統のものであり、排除すべきものと考えられる。RD に指定するものは日本に土着の系統である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持する。

【文献】千植誌 2003：617, 611

【写真】1992.10.23 成田市 標本：CBM BS-81107

(大場達之／天野誠)



B シロバナタカアザミ キク科

2009	C
2017	C
2023	B

Cirsium pendulum Fisch. ex DC. var. *albiflorum* Makino

【種の特性】タカアザミに似るが筒状花は白色で6月頃に咲き、河川のより浸水頻度の高いところに生える。生態的特質から単なる白色花の品種ではなく変種相当の分類群と考えられる。

【分布】タカアザミと同じ範囲に分布すると考えられるが、明らかでない。

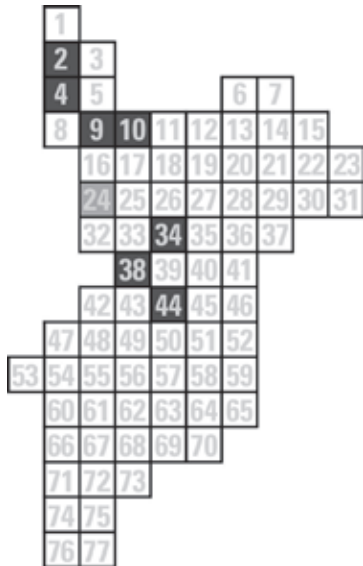
【県内の状況】千葉市から野田市にかけて点々と産地が知られている。

【保護対策】自生地 of 河川敷の改変を避ける。

【文献】千植誌 2003：579, 570

【写真】2014.6.26 野田市 岩槻秀明

(大場達之／天野誠)



B キセルアザミ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Cirsium sieboldii Miq.

【種の特性】多年生草本。湿原、ハンノキ林などに生える。茎は高さ50～100 cmで直立。葉は単葉で互生し根生葉は花時まで残りロゼット状。頭花は長い柄があって単生し、下向きに咲く。筒状花は紅紫色。虫媒で風散布。[HH] ヨシ群綱。別名マアザミ

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】かつては茂原市～長生村には稀でなかったが、湿地の開発によって産地が失われ少なくなっている。

【保護対策】自然度の高い湿地の保全。

【文献】千植誌 2003：577, 568

【写真】木更津市 大場達之

(大場達之／天野誠)

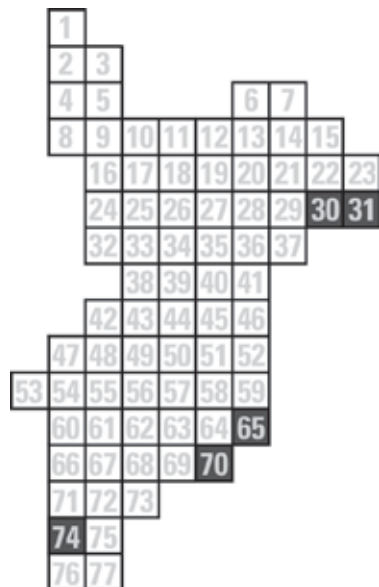


B ハマサワヒヨドリ キク科

2009	A
2017	B
2023	B

Eupatorium lindleyanum DC. var. *yasushii* Tuyama

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。サワヒヨドリに似ているが節間がつまっていて、高さ 20cm ほどであるが、クロマツの影に生えたものでは 60cm ほどになることもある。茎に開出毛が密にあり、葉が広く丸みがあって毛が多い点がサワヒヨドリと異なる。サワヒヨドリが伊豆諸島とその対岸本土の地域に分化した変種で、学名は津山（1956）により三宅島の標本をもとに命名されたが、和名は銚子産の標本に基づいて檜山（1951）が命名したものである。海崖の草地に生えるが銚子では海岸近くの湿地周辺にも見られる。[H] イソギクハチジョウススキ群集。



【分布】本州（千葉）・伊豆諸島。

【県内の状況】銚子市のほか、いすみ市、御宿町、館山市などからも採集されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】檜山庫三 1951 ボタニカルノート 2.13. ハマサワヒヨドリ. 野草 17(139): 2 / 津山尚 1956 ヒヨドリバナの海岸型. 植物研究雑誌 31: 28 / 新千植誌 1975: 358 / 千植誌 2003: 592, 582

【写真】2000.8.18 銚子市 谷城勝弘
(大場達之/天野誠)



B アキノハハコグサ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Gnaphalium hypoleucum DC.

【種の特性】二年生草本。痩せた草地の裸の部分に一時的に生える。茎は直立し高さ 30～60cm で、茎の上部で多く枝分かれする。葉は単葉で互生。花時には茎下部の葉は枯れている。花は 9～10 月で総苞は黄色で光沢がある。虫媒で風散布。[Th] ハタガヤーイトハナビテンツキ群集。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】全域から記録されているが個体数は少なく、同一箇所に継続的に観察できることは希である。貧栄養で乾燥した裸地に一時的に現れる先駆的な植物であり、環境全体の富栄養化にともなって生活域が減少していると考えられる。

【保護対策】道路法面などの緑化を適度にとどめ、自生植物が生えうる余地を残す。

【文献】千植誌 2003: 603, 607

【写真】1992.11.6 市原市 標本: CBM BS-47789

(大場達之/天野誠)



B ハマアキノキリンソウ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Solidago virgaurea L. subsp. *leiocarpa* (Benth.) Hult  n var. *ovata* Honda

【種の特  性】多年生草本。葉は単葉で互生。ハチジョウアキノキリンソウに似ているが、葉の鋸歯が低く、植物体は丈が低い。鋸山の標本をもとに記載された。海岸の崖に生える。ハチジョウアキノキリンソウとアキノキリンソウの交雑種である可能性が高い。虫媒で風散布。イソギク－ハチジョウススキ群集。[H]

【分布】本州（関東南部）。

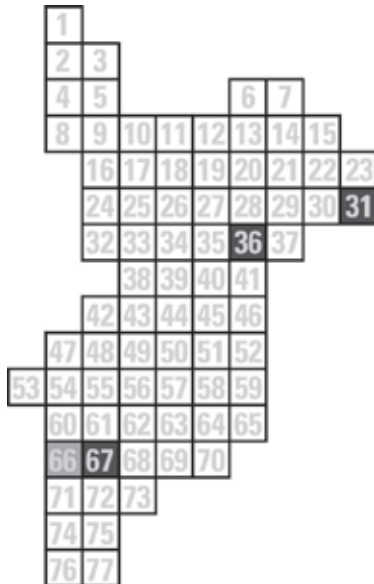
【県内の状況】銚子市、鋸山、成東・東金食虫植物群落などから記録されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】Honda, M. (1932) Bot. Mag. Tokyo 51: 645.; 千植誌 2003: 594, 584

【写真】2005.11.6 銚子市 福田洋

（大場達之／天野誠）



B オヤマボクチ キク科

2009	B
2017	B
2023	B

Synurus pungens (Franch. & Sav.) Kitam.

【種の特  性】大形の夏緑多年草。茎は高さ1～1.5 m、茎の葉は基部心形または切形。根生葉は長い柄があって卵形で基部は心形、長さ15～35cm。下面は。密に蜘蛛毛があって白色。花は9～10月に咲き、頭花は長い柄があって下向きに咲き、総苞は鐘状球形で長さ3cm、筒状花は紫色。虫媒で風散布。[H]

【分布】北海道・本州（中部以東）。

【県内の状況】房総丘陵に分布するが少ない。県北部からの報告はハバヤマボクチの誤りである。

【保護対策】鑑賞目的などでの採集を行わない。

【文献】千植誌 2003: 574, 566

【写真】2002.9.19 君津市 大場達之
（大場達之／天野誠）

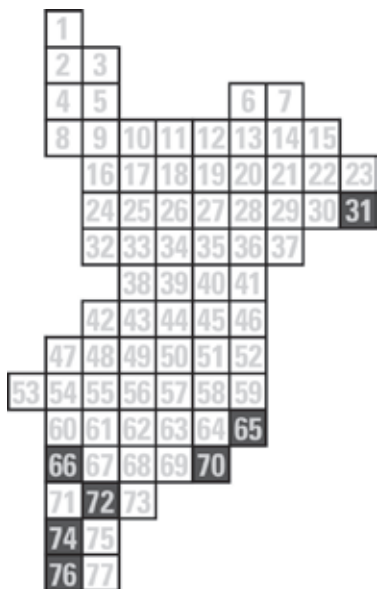


B マルバノハマシャジン キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Adenophora triphylla (Thunb. ex Murray) A.DC. f. *rotundifolia* Hiyama

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で輪生、幅広く、厚手で光沢がある。虫媒で風散布。ツリガネニンジンに似て丈は低く、節間がつまり、ハマシャジンも同じようにツリガネンジンの海岸型で千葉県の海岸に散布するが、ツリガネニンジンとの間は連続的である。ハマシャジンとマルバノハマシャジンは同所的に見られ、分類的に再検討が必要であるが、両者は別系統のものとも考えられる。マルバノハマシャジンは銚子が基準標本産地である。品種ではなく変種が適当であろう。海崖の草地に生える。イソギクハチジョウススキ群集。[H]
 【分布】本州（千葉、神奈川の海岸）、伊豆諸島。神奈川県植物誌（1988）にハマシャジンとされている図はマルバノハマシャジンである。



【県内の状況】銚子市に産することが古くから知られているが、1995年に鋸山でも発見された。

【保護対策】保護の具体策を実施すると共に生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】檜山庫三 1951 ボタニカルノート 2.12. マルバノハマシャジン、野草 17(139): 2 / 檜山庫三 (1952) マルバノハマシャジン、植物研究雑誌 27: 52 / 千植誌 2003: 561, 555

【写真】2003.8.19 銚子市 谷城勝弘
 (大場達之／谷城勝弘 追補)



B バアソブ キキョウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Codonopsis ussuriensis (Rupr. & Maxim.) Hemsl.

【種の特性】多年生草本のつる草。球状の根茎がある。茎は細く柔らかで、切れば白乳液を出す。花は7～8月頃咲き、花冠内部の上方は濃紫色である。本種によく似たツルニンジン *C. lanceolata* (Siebold et Zucc.) Travu. の花冠内部の上方は褐紫色の斑点があり、濃紫色にならない。ススキ群集。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県内の生育は少ない。北総域では谷津の台地斜面下方の湿度の高い所に生えるものが数個体観察されている。

【保護対策】生育に適正な環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 561, 555

【写真】2017.8.26 東京都植栽 石川和宏

(谷城勝弘)



B サワギキョウ キキョウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Lobelia sessilifolia Lamb.

【種の特性】多年生草本。湿原に生える。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。1mに達する。[HH] ホソバナヨツバムグラ大形スゲ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】花が美しいので観賞用に採取されることが多いほか、自生地の湿地の減少のために激減した。多古光湿原には100個体を超える生育がある。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。多古光湿原は現存する最大の自生地であり、保護の具体的措置をとることが望ましい。

【文献】千植誌 1975：365 / 千植誌 2003：563, 556

【写真】2008.10.5 多古光湿原
谷城勝弘

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B キキョウ キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A.DC.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。地下に肥厚した根がある。ススキ草原あるいはコナラ二次林などに生える。トダシバーススキ群団。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州、琉球（奄美大島）。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】半自然的な草地の多かった時代には稀な植物ではなく、また花の目立つ植物なので採集者から注目され、ほとんど県内全域から多くの産地の報告がある。半自然的草地の減少と、観賞用としての選択的採取のために激減し、現在では極めて稀なものになっている。しかし1990年代でも市原市、酒々井町、芝山町、成田市、多古町などから記録されている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。昔ながらの定期的な刈り取りを行う草地環境を維持することが望ましい。市原市の例ではコナラ林の伐採跡地で観察されており、これは埋土種子からの回復である可能性が高い。千葉県は古くから牧野の多い所であり、種類の多いススキ草原は郷土の景観として重要な存在である。市原市におけるように埋土種子からの回復が最も適当な手段であろう。

【文献】千植誌 2003：561, 555

【写真】1998 市原市 平田和弘

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B ヒナギキョウ キキョウ科

2009	C
2017	C
2023	B

Wahlenbergia marginata (Thunb. ex Murray) A.DC.

【種の特性】多年生草本。乾いた芝草地、路傍、砂浜の後背地などに見られるが少ない。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。シバスゲ群目。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】海岸付近の砂地などに点在する。

【保護対策】適切な人為管理を行って草地環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：561,555

【写真】1996.10.23 茂原市 CBM BS-376556
(大場達之／谷城勝弘 追補)



B ミツガシワ ミツガシワ科

2009	B
2017	B
2023	B

Menyanthes trifoliata L.

【種の特性】多年生草本。湿地に生える。地下に横走する太い地下茎がある。葉は3出複葉で根生、小葉は長楕円形または菱状楕円形で先端はやや尖り、無毛で厚みがあり、光沢がある。花は千葉県では4～5月に咲き、白色で花冠は5裂。虫媒で水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。北半球の夏緑林帯以北に多く分布する。

【県内の状況】寒冷期からの遺存と考えられるものが、冷涼な湧水で涵養される湿地に見られるが、現在では自生地は極めて限られ、木更津市、野田市などで見られる他、佐倉市では鹿島川沿いにあった自生地から数ヶ所に

移植したものが生き残っている。かつては茂原市、成田市、東金市、袖ヶ浦市などからも記録されている。

【保護対策】現在自生している環境を保護地として維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 384。千植誌 2003 461,453

【写真】1997.5.8 木更津市
大場達之

(大場達之／天野誠)



B アサザ ミツガシワ科

2009	B
2017	A
2023	B

Nymphoides peltata (Gmel.) O.Kuntze

【種の特性】多年生の浮葉水草。地中に横に這う根茎がある。葉は単葉で対生し水面に浮かび、円形で深心形で両縁は深く重なり、直径4～12cmで縁はやや波曲し表面はやや光沢があり、下面は紫色をおびることがある、長い柄がある。花は6～9月に咲く。花冠は5裂し黄色、直径3～4cm、裂片は縁に毛がある。虫媒で、水散布。池に生える。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、ユーラシア大陸に広く分布。

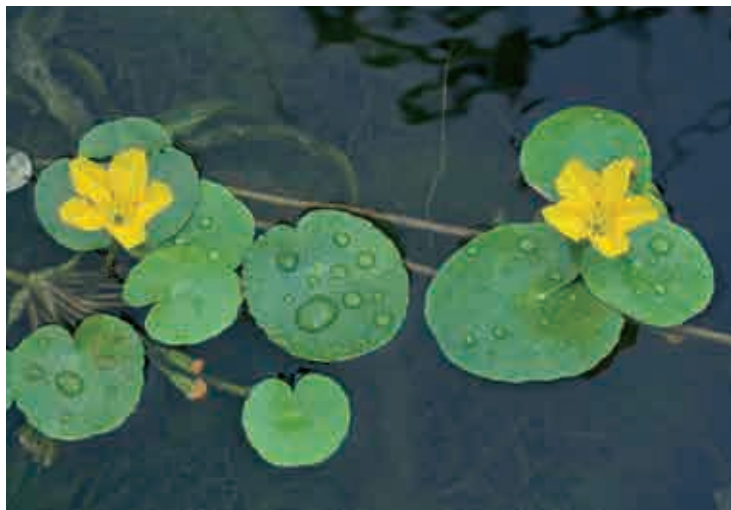
【県内の状況】やや規模の大きい池・沼に生え、印旛沼、手賀沼には多かったが、現在は生育が認められず、周辺の水路、池などに埋土種子などに由来するものが生えるのみである。

【保護対策】池・沼の水質を回復させる事が重要である。

【文献】新千植誌 1975、千植誌 2003 461,453

【写真】2008 成田市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B エキサイゼリ セリ科

2009	A
2017	A
2023	B

Apodicarpum ikenoi Makino

【種の特性】小型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で水散布。オギ群落の下層に生え、オギの茎葉の伸長する前に葉を展開し開花結実する春植物。夏には凋落して確認は困難である。果実は6月に熟す。新しく形成されたオギ群落にも進出することが認められる。ハナムグラ-オギ群集。日本の固有種、固有属。(1属1種)。^[G]

【分布】本州(関東地方、愛知県)。

【県内の状況】江戸川沿岸及び利根川に見られ、生育環境はかつてよりも著しく狭められている。近年、栗山川で大群落が確認されている。

【保護対策】河川敷のオギ群落を保全することが望ましい。場所によってはゴミの集中堆積が著しいのでオギの刈り取り、野焼きなどの管理が大切である。

【文献】千植誌 2003: 424, 414

【写真】2002.5 横芝光町 谷城勝弘

(大場達之／天野誠)



B ホタルサイコ セリ科

2009	B
2017	B
2023	B

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *breviradiatum* F.Schm.

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生し広披針形または長楕円形で、平行脈が目立ち下面は白っぽい。花は8～10月に咲き黄色。小散形花序に10～15花がつく。虫媒で、重力散布。[H] ススキ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

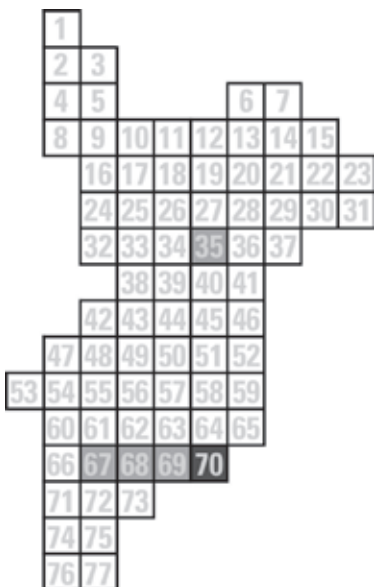
【県内の状況】房総丘陵南部に分布し、時に海崖の草原にも見られるが、個体数は少ない。

【保護対策】無用の採集を行わない。

【文献】千植誌 2003：424,414

【写真】1942 清澄山 標本：CBM BS-95660

(大場達之／天野誠)



B ミヤマチドメ ウコギ科

2009	
2017	C
2023	B

Hydrocotyle japonica Miq.

【種の特性】小型の匍匐多年生草本。高さ、1 cm～4 cm。茎は糸状で地を這う。葉身は円形、深く5裂する。花は緑色で枝の先端に2個から4個付く。花期は、6月～11月。虫媒で、重力散布。常緑樹の林床に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

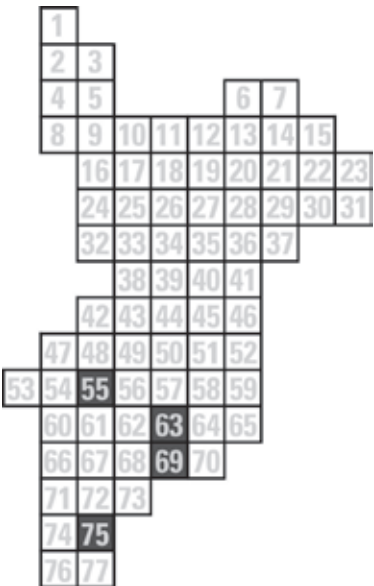
【県内の状況】主に丘陵部の常緑樹林の林床に生育する

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:346／新千植誌 1975:395／千植誌 2003:421／改訂新版日本の野生植物 5 2017:381

【写真】2011.9.15 君津市 標本：CBM BS-316716

(天野誠)



B ミヤマガマズミ スイカズラ科

Viburnum wrightii Miq.

2009	B
2017	B
2023	B

【種の特性】 夏緑低木。夏緑林内および林縁に生える。普通高さ3～4 m。葉は対生し卵円形～広倒卵形、やや粗い鋸歯がある。花は5～6月。虫媒で鳥散布。ミヤマガマズミは変異が多く、千葉県のは葉が小形でやや異なった形態を持っている。さらに研究が必要である。[N]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン。

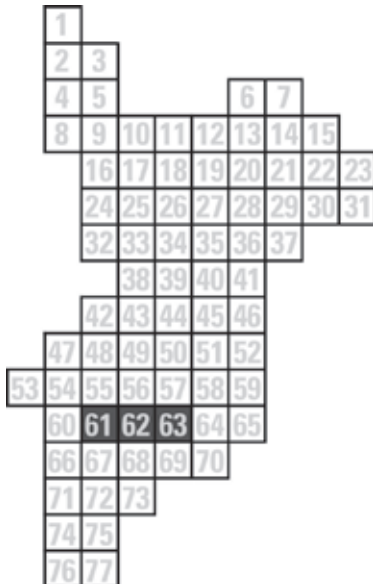
【県内の状況】 君津市のみ知られる。

【保護対策】 個体数が少ないので、保護管理を慎重に行う。

【文献】 千植誌 2003 : 557, 551

【写真】 1975.10.20 君津市 標本: CBM
BS-380178

(大場達之/天野誠)

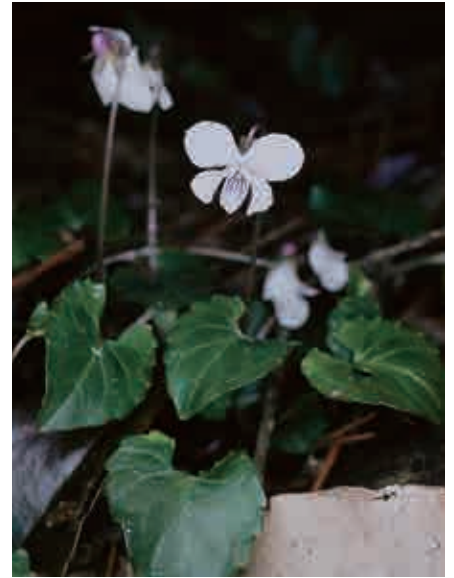




C ヒメタデ 2003年9月6日 成田市
谷城勝弘 351ページ



C ホソバイヌタデ 1993年9月
野田市 大場達之 351ページ



C フモトスミレ 1998年4月30日 清澄山
大場達之 345ページ



C スハマソウ 1999年3月 印西市 大場達之 343ページ



C コモウセンゴケ 市原市
平田和弘 350ページ



D モウセンゴケ 1999年7月22日 茂原市
大場達之 391ページ



D シャクジョウソウ 2004年6月12日 市川市
福田洋 ページ



C サツマイナモリ 2004年12月 鴨川市 谷城勝弘 356ページ

D ヒロハノカワラサイコ 2006年7月30日 印西市
大場達之 387ページ



D イチリンソウ 2007年4月22日
佐倉市 谷城勝弘 381ページ



C スナビキソウ 2001年5月 館山市
大場達之 360ページ



D ミゾコウジュ 1995年6月8日
佐原市 腰野文男 395ページ



D ホシクサ 2003年10月5日 長生村 谷城勝弘 377ページ



D ニッポンイヌノヒゲ 2006年9月30日 成田市
谷城勝弘 377ページ



D アマナ 佐倉市 1996年5月3日
大場達之 ページ366



C ウキシバ 1989年8月26日 千葉市 大場達之 342ページ



D ミクリ 成田市 2005年6月26日
谷城勝弘 380ページ



D イトイヌノヒゲ 2003年10月5日
長生村 谷城勝弘 377ページ



D オオアオスゲ 2005年5月3日 佐倉市
谷城勝弘 371ページ



D ジョウロウスゲ 2006年5月30日 我孫子市
谷城勝弘 370ページ



C ミヤマシラスゲ 2005年5月29日 東金市
谷城勝弘 337ページ



D ヒゲスゲ 2006年6月4日 銚子市 谷城勝弘 372ページ



C タチスゲ 2006年5月14日 横芝光町
谷城勝弘 337ページ



D シオクグ 2006年5月14日 横芝光町
谷城勝弘 373ページ



C オオクグ 2004年5月8日
東庄町 谷城勝弘 338ページ



D オニナルコスゲ 2004年5月4日
多古光湿原 谷城勝弘 373ページ



C オオアゼテンツキ 2005年7月17日
成田市 谷城勝弘 339ページ



C ナガボテンツキ 2008年9月15日
東庄町 谷城勝弘 339ページ



C ビロードテンツキ 2004年9月4日
旭市 谷城勝弘 340ページ



D ヒトモトスキ 2007年9月9日 旭市
谷城勝弘 372ページ



C ヒメアオガツリ 2004年10月2日 睦沢町
谷城勝弘 339ページ



C クロヤツシロラン 1998年10月 印西市
大場達之 334ページ



D ツチアケビ (左:果実) 1998年 市原市 平田和弘/
(右:花) 1996年6月30日 長柄町 福田洋 369ページ



D ササバギンラン 1998年4月 佐倉市
大場達之 369ページ



D ギンラン 2008年5月5日
千葉市 大場達之 368ページ



C サガミラン 1990年6月 千葉市
大場達之 334ページ



D サイハイラン 2008年5月 流山市 木村陽子 369ページ



D ナツエビネ 2002年8月28日 君津市 木村陽子 68ページ

C	イブキ	ヒノキ科	2009	C
			2017	C
	<i>Juniperus chinensis</i> L.		2023	C

【種の特性】常緑高木。海岸の崖、時に磯浜、稀に内陸の岩場に生育する。葉は鱗片状で対生。風媒で鳥散布。[N～M] ツルオオバマサキートベラ群集またはウバメガシ群集。

【分布】本州（北部以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】鋸南町、館山市、鴨川市の海岸に見られる。館山市、鋸南町にあることは地元では古くから知られてきたが、植物研究者には認識されていなかった。鴨川市に分布することも報告されている。



【保護対策】崖に生えるので人為の影響は比較的少ないが、古くから盆栽用として小形の株が採取されており、このような行為を行わないことが望ましい。庭園・街路などにしばしば植栽される（特に品種のカイズカイブキ）ので、それとの遺伝的交雑を防ぎ、千葉県の個体群の遺伝的特性を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：67, 83.
(齊木健一)

C	トウゴクヘラオモダカ	オモダカ科	2009	C
			2017	C
	<i>Alisma rariflorum</i> Sam.		2023	C

【種の特性】ため池、水路に生える抽水性または湿地性の多年生草本。ヘラオモダカに似るが、葉身は小型楕円形で花弁は6～7mmで、大形である。花序の最下の柄は普通2本。花は午後1～2時頃から咲き始める（ヘラオモダカは午前中から咲く）。

【分布】本州・九州。

【県内の状況】県中～北部に点在する。清涼な絞り水で潤った台地斜面下の湿所で見出されることが多い。従来の記録が少ないのは、ヘラオモダカやサジオモダカと混同されてきたためと思われる。



【保護対策】生育適地となる湿地や水辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】薄葉満 1986 水草研究会会報 (25):16-19 / 千植誌 2003：652, 643.

(谷城勝弘)

C	ヤナギスブタ	トチカガミ科	2009	C
			2017	C
	<i>Blyxa japonica</i> (Miq.) Maxim. ex Asch. & Grke.		2023	C

【種の特性】沈水性の一年生草本。茎は5～20cm 伸長して枝を分かち。葉は単葉で互生。花は8～10月に咲き柄が無く苞鞘につつまれて1個着き両性。水媒で水散布。[Th] ヒツジグサ群団。

【分布】本州～琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】各地の水田および周辺の水路に見られるが、除草剤の使用などで、谷津の奥の水田などに生育が限られている。

【保護対策】除草剤などを使用しない生物多様性保存水田の実現を望みたい。



【文献】千植誌 2003：655, 644.
(大場達之／天野誠)

C	クロモ	トチカガミ科	2009	C
			2017	C
	<i>Hydrilla verticillata</i> (L.f.) Royle		2023	C

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で4～8葉を輪生。葉は披針形で鋸歯があり、長さ1～2cm。花は8～10月に咲き、雌花は葉腋に着き、雄花は熟すると苞鞘から離れて水面に浮かぶ。水媒で水散布。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】印旛沼など既存の産地は水質悪化で絶滅したところが多く、山間地の湧水で涵養される池などに産地が限られている。水質の汚濁と共にオオカナダモに置き換わっているところが多い。



【保護対策】池・沼の水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：654, 661.
(大場達之／天野誠)

C トチカガミ トチカガミ科

2009 C
2017 C
2023 C

Hydrocharis dubia (Blume) Backer

【種の特性】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生し円形で光沢があり径4～8cm、下面に浮き袋がある。花は8～10月に水面に浮かんで咲き、果皮は3枚で白色。水媒あるいは虫媒で、水散布。[HH] ヒルムシロ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】主に九十九里低地や利根川水系の池・沼に見られたが著しく少なくなっている。

【保護対策】水田周辺の水質保全。

【文献】千植誌 2003：656,661。

(大場達之／天野誠)



C トリゲモ トチカガミ科

2009 C
2017 C
2023 C

Najas minor All.

【種の特性】池沼、ため池などの生える一年生の沈水植物。植物体は硬く、葉は1～2cmで外側に反り返る。雄ずいの葯は1室。通常は水深が10～20cmの場所に生育する。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】近年は手賀沼畔、印旛沼畔の実験池などに少数個体の生育が確認されている。オオトリゲモと同所的に混生して生えることが多い。かつての湿田状態の稲作水田で比較的好くみられた水田雑草

であるが、農業の近代化に伴い水田地帯では急減した。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：671。

(谷城勝弘)



C セキシウモ トチカガミ科

2009 C
2017 C
2023 C

Vallisneria asiatica Miki

【種の特性】沈水性の多年生草本。地中に平滑で白色の地下茎がある。葉は線形で螺旋状によじれることが多い。葉の縁の鋸歯は低い。花は8～10月に咲き、雌花の花茎は長く、花の後で螺旋状に巻いて果実を水中に引き込む。雄花の花茎は長さ2～3cmで熟すると離脱して水面に浮かぶ。水媒で、水散布。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。東アジア。

【県内の状況】かつては水田周辺の用水路に普通であったが、現在で

はほとんど見られなくなっている。

【保護対策】水田周辺の水質および水路の構造の改善。

【文献】千植誌 2003：655,661。

(大場達之／天野誠)



C リュウノヒゲモ ヒルムシロ科

2009 B
2017 C
2023 C

Potamogeton pectinatus L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。湖沼、河川（やや海岸性要素が強い）に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は針状で、縁に鋸歯がない。花茎は5～20cmに達する。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】九十九里平野の記録がある。野田市、八千代市、印旛沼にも記録されるが、近年の確認は稀である。水質の汚濁や環境の改変によって消滅した生育地が多い。近年、印西市に大規模の群落が確認された。

【保護対策】旧生育地や現生育地での生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：432／千植誌 1975：479／千植誌 2003：660,664／千植写真 2005：369。

(谷城勝弘)



C	ソクシンラン	キンコウカ科	2009	C
			2017	D
	<i>Aletris spicata</i> (Thunb.) Franch.		2023	C

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で根元に多数が互生して広がる。花茎は直立して枝分かれせず、淡紅色を帯びた花を多数つける。虫媒で、風散布。[H] ススキ群綱。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、フィリピン。

【県内の状況】湿った崖の斜面に見られることが多い。銚子市・長南町・長柄町、館山市などに多く見られ、よく草刈りの行われている谷津田の側壁にノグサ、コケリンドウなどと共に生えることが多い。

【保護対策】斜面草地の保存をはかる。

【文献】千植誌 2003：676, 677
(大場達之／天野誠)



C	カエデドコロ	ヤマノイモ科	2009	
			2017	A
	<i>Dioscorea quinqueloba</i> Thunb.		2023	C

【種の特性】つる性の多年生草本。横走する根茎がある。葉は、3浅裂または掌状に5裂〜9裂する。乾燥させても黒変しない。雄花序は、上向き。種子の全縁に翼がある。虫媒で、風散布。花期は、7月〜8月。林縁に生育する。[G]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】野田市で2012年8月4日に採集された標本（CBM BS-353292）と鴨川市で2012年11月21日に採集された標本（CBM BS-330881）と南房総市で2007年5月24日に採集された標本（CBM BS-252081）と大多喜町で1955年8月11日に採集された標本（CBM BS-2544002）がある。他に目視として、君津市、長南町、鋸南町、富津市、市原市、木更津市、千葉市、栄町に記録がある。

【保護対策】斜面草地の保存をはかる。

【文献】新千植誌 1975:447／千植誌 2003:701／改訂新版日本の野生植物 1 2016:150

(天野誠)



C	カタクリ	ユリ科	2009	B
			2017	B
	<i>Erythronium japonicum</i> Decne.		2023	C

【種の特性】多年生草本。地下深くに細長い球根があり、若年個体では葉が1枚、開花株では2枚の葉を出汁、花茎の先に1個の花を下向きにつける。虫媒でアリ散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国。朝鮮、中国、サハリン、プリモリア。

【県内の状況】段丘崖の北斜面下部に生える。県北部に分布が集中し、君津市の離れた分布が2ヶ所ある。

【保護対策】防護策などを設置しているところもあるが、鑑賞目的での盗採が著しく多く全滅寸前の場所もある。鑑賞目的での採集をしないことを徹底する。

【文献】千植誌 2003：688, 682

(大場達之／天野誠)



C	コオニユリ	ユリ科	2009	C
			2017	C
	<i>Lilium leichtliuii</i> Hook.f. var. <i>tigrinum</i> (Regel) Nichols.		2023	C

【種の特性】中型の多年生草本。湿地、水田の土手に見られることが多いが、ススキ草原にも見られ。海岸の崖にも生える。平坦地では直立するが、斜面では垂れて生える。葉は単葉で互生。花は夏に咲き橙赤色で紫黒色の斑点がある。花被片は強く反曲する。虫媒で風散布。オニユリに似ているが葉腋にムカゴはできない。ススキ群綱。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内各地に点在する。花が著しいので採集されることが多く、どこでも個体数が少ない。

【保護対策】鑑賞目的での採集を禁止するべきである。

【文献】千植誌 2003：687, 681
(大場達之／天野誠)



C	ツクシショウジョウバカマ	シュロソウ科	2009	C
			2017	C
	<i>Helonias brevica</i> (Maxim.) N.Tanaka		2023	C

【種の特性】 小型の多年生草本。湿った川岸の崖に生える。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ショウジョウバカマに似ているが、葉は薄く縁は波曲し、細鋸歯状の突起が並ぶ。花はわずかに紅色を帯びた白色。これまで千葉県でシロバナショウジョウバカマと呼ばれてきた。[G]

【分布】 本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】 市原市から鴨川市までの房総丘陵に分布する。

【保護対策】 鑑賞目的での採集を禁止すべきである。

【文献】 N.Tanaka 1998 Journ. Jap. Bot. 73:111 / 千植誌 2003 : 676,678
(大場達之／天野誠)



C	ナギラン	ラン科	2009	B
			2017	B
	<i>Cymbidium lancifolium</i> Hook.		2023	C

【種の特性】 常緑多年生草本。照葉樹林の林床に生える。葉は単葉で、光沢のある2枚の葉をつける。花は夏の終わりに咲き、緑白色で唇弁に紅紫色の斑がある。虫媒で、風散布。[H] カクレミノースダジイ群目。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国南部、インド、マレーシア。

【県内の状況】 鴨川市、和田町などの記録があり、2007～2008年には館山市で観察されている。

【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 浅野貞夫 1957 千葉県下ナギランの分布・採集と飼育。18(11): 327 / 新千植誌 1975 : 442 / 千植誌 2003 : 922, 909.

【写真】 2006 館山市 大場達之

(大場達之／天野誠)



C	ワニグチソウ	キジカクシ科	2009	B
			2017	C
	<i>Polygonatum involucre</i> (Franch. & Sav.) Maxim.		2023	C

【種の特性】 小形の多年生草本。ナルコユリの類に似ているが、花序の基部に一对の苞葉がある点特徴。花は苞葉に包まれて2個の花が咲く。結実した個体の報告は極めて少なく。増殖はもっぱら根茎の伸長分岐に依存していると考えられる。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】 県北部に分布が集中し、南限は市原市。クヌギ・コナラの二次林の減少と、管理の放棄で個体数は減少しつつあると考えられる。

【保護対策】 鑑賞目的での採集をしない。コナラ二次林の環境を保つ。

【文献】 千植誌 2003 : 674, 667

(大場達之／天野誠)



C	マヤラン	ラン科	2009	C
			2017	C
	<i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl.		2023	C

【種の特性】 多年生草本。林の中に生えるが土手の草地に生えた例も知られる。葉は無葉緑。地下に太い菌根が発達する。6～7月に開花するが、花茎が損なわれると花茎基部から新茎を発し、夏の終わりから秋に咲くこともある。虫媒で、風散布。[G～H?]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。中国、インド。

【県内の状況】 ほぼ全域から、かなり多くの記録があり、出現地に持続せず、突然現れて数年後に消滅することが普通である。

【保護対策】 種子は広域に散布され生育好適地に到達すると、数年の菌根茎発育後に開花して数年で消失する。開花株を保全し種子の散布が十分に行われるように配慮する。

【文献】 斉藤吉永 1963 千生誌 13(1): 16-17 / 浅野貞夫 1971 植物採集ニュース 64: 51 / 斉藤吉永 1973 植物採集ニュース 66: 67 / 若名東一 1973 植物採集ニュース 66: 67 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン: 185 / 柳川定春・高橋秀男・大場達之 1981 神奈川県のマヤラン類。神奈川自然誌資料 2: 47-54 / 千植誌 2003 : 922, 909

(大場達之／天野誠)



C	サガミラン	ラン科	2009	C
			2017	C
	<i>Cymbidium macrorhizon</i> Lindl. f. <i>aberrans</i> (Finet) Hid.takah. & Ohba		2023	C

【種の特性】多年生草本。葉は無葉緑。マヤランに似て花が白色で濃紅色の斑のないもの。別属あるいは別種とされたこともあるがマヤランと同一場所に生えることも多い。単なる白花品種にすぎないとする説と別種であるとする見解がある。虫媒で、風散布。[H]

【分布】マヤランの分布域の中に点々と知られる。

【県内の状況】大東岬近くの松林で採集されたものにダイトウラン (*Cymbidium aphrodite* Makino et F. Maekawa) の名を与えたが正式に発表されなかった。1990年6月に千葉県立中央博物館の構内のコナ



ラ林の林床にマヤランと並んで生えているのが発見された。その後千葉市の他地点、市原市、佐倉市などでも発見されている。

【保護対策】1ヶ所に安定して生育するものではなく、保護は難しい。

【文献】牧野富太郎 1950 図説普通植物検索表：291 / 柳川定春・高橋秀男・大場達之 1981 神奈川県のマヤラン類。神奈川自然誌資料 2：47-54 / 千植誌 2003：922,909

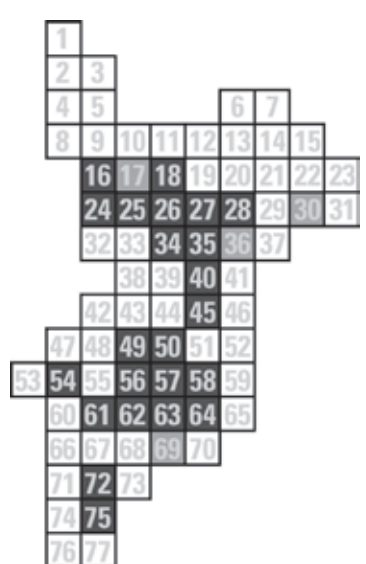
(大場達之／天野誠)

C	クマガイソウ	ラン科	2009	B
			2017	B
	<i>Cypripedium japonicum</i> Thunb.		2023	C

【種の特性】多年生草本。竹林、スギ林あるいはコナラ等の二次林に生える。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。地下茎を伸ばして群生することが多い。扇形で縦しわの目立つ葉を2枚対生につける。唇弁は袋状で大きく目立つ。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道（西部）・本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】かつては県全域に広く分布が知られ、旧成東町八幡台のスギ林の下に生えた大きな群落は県指定の天然記念物に指定されていた。しかしスギ植林の林地が、枝打ち、間伐などの管理が行われなくなったために、林内が暗くなり絶滅した。どこでも里山の管理が行われなくなり、林床の遷移が進んでクマガイソウは激減している。また観賞用の採取も無視できない。佐倉市、富里市、



印西市、横芝光町、市原市など多くのところで1990年以降に存在が確認されているが、どこも個体数が少なく開花に至らない貧弱な個体のみが記録されたところも多い。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】興世里盛春・沼田真 1958 クマガイソウの群生地。千葉県文化財記要：1-3 / 西田誠 1971 成東町クマガイソウ。千葉県天然記念物調査報告書：113117 / 岩瀬徹・小幡和男 1978-1980 千葉県指定天然記念物成東町クマガイソウ調査報告書I・III / 田中強 1983 八千代市少年自然の家のカタクリとクマガイソウものがたり。カタクリ研究 2：10-11 / 千植誌 2003：911,901

(大場達之／天野誠)

C	タシロラン	ラン科	2009	C
			2017	C
	<i>Epipogium roseum</i> (D.Don) Lindl.		2023	C

【種の特性】多年生草本。地下に根茎を延ばし群生する。葉は無葉緑で鱗片状。花は6～7月、茎は高さ20～50cmで、花柄は細く、10～30個の白い花を垂れてつける。果実が開裂する時期でも花被片が残る。虫媒で、風散布。菌根性。腐植質の多い暗い照葉樹林などに生える。カクレミノースダジイ群目。[G]

【分布】本州（関東以西）・九州・琉球。台湾、中国、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】1995年に千葉市で発見し、その後、南房総市、大網白里市などで記録された。神奈川県でも1953年にはじめて発見され、気候の温暖化によって南方から分布が広がったと推定されている。

【保護対策】このような分布が急拡大している植物の保護は、拡散の状態を綿密に追跡して、適時に対策を講ずることが必要。

【文献】岩瀬徹・福田洋 1996 タシロラン (*Epipogium roseum*) が千葉市内に出現した。千生誌 45(2)：28 / 千植誌 2003：907,917

(大場達之／天野誠)



C	クロヤツシロラン	ラン科	2009	C
			2017	C
	<i>Gastrodia pubilabiata</i> Sawa		2023	C

【種の特性】多年生草本。菌根性。竹林及びスギ植林の林床に群生することがある。葉は無葉緑で鱗片状。花は8～9月に落ち葉に半ば埋もれて咲き、黒褐色で平開し、花被片の外にはアキザキヤツシロランに見られるようなイボ状突起はない。花後、花柄が高さ30～50cmほどに急伸長するが、冬には崩れて残らない。果実・花柄は黒色を帯びる。果序の分岐点は地中にある。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国。

【県内の状況】栄町から館山市まで広く分布する。果実期に竹林（特にモウソウチク林）を探すと比較的容易に発見できる。

【保護対策】生育地を良好な状態に保つ。

【文献】Sawa, Y. (1980) *Spontaneous orchids in the intermediate zone of Kochi Prefecture*. in Res. Rep. Kochi Univ. 29: 65 / 大野景德・竹内美亀 (1997) クロヤツシロランが八千代市に産する。千植誌資料 10：72 / 千植誌 2003：917, 906

(大場達之／天野誠)



C アキザキヤツシロラン ラン科

2009	B
2017	B
2023	C

Gastrodia verrucosa Blume

【種の特性】小形の多年生草本。菌根性モウソウチク林およびスギ林に見られ、時にクロヤツシロランと混生する。葉は無葉緑。花は9月中旬から下旬。半ば落ち葉に埋もれて咲く。花被片の外面にはヒキガエルの皮膚に似たイボ状の凹凸があり、花は平開せず、先端のみが開く。花後、果柄は30～40cmほど伸張し、果実はワラ色を帯びる。花序は地表より上で分岐する。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】クロヤツシロランとほぼ同じ範囲に分布するが、やや少ない。

【保護対策】自生地の環境を保つ。

【文献】津山尚・杉野孝雄 1966 日本産オニノヤガラ属雑記(3). 植物研究雑誌 41: 339-346 / 千植誌 2003: 917, 906

【写真】2008.10.5 佐倉市 和田求司

(大場達之／天野誠)



C クロムヨウラン ラン科

2009	B
2017	C
2023	C

Lecanorchis nigricans Honda

【種の特性】小形の多年生草本。菌根性で無葉。照葉樹林の林床に生える。花は8月に咲き淡黄白色で唇弁は紅紫色の部分がある。茎は直立しわずかに分岐し、細く堅く、花後は黒色となり、翌年までたっている。花の終わった後の茎に黒色の開出した毛状の物が見られることがあるが、これは寄生菌によるものだという。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・九州。

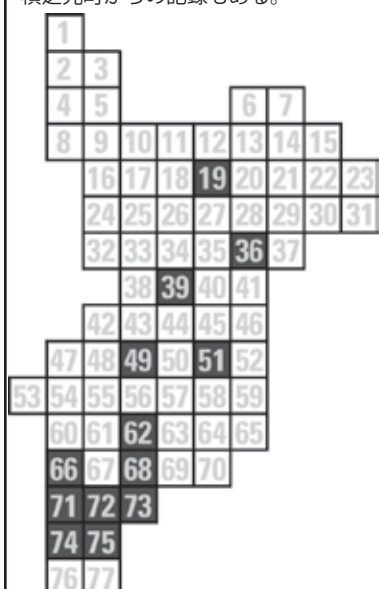
【県内の状況】主として市原市以南の房総丘陵から記録されているが、横芝光町からの記録もある。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003: 916, 906

【写真】(左) 1997 旧横芝町、(右) 1985 神奈川県 大場達之

(大場達之／天野誠)



C アケボノシュスラン ラン科

2009	B
2017	B
2023	C

Goodyera foliosa (Lindl.) Benth. var. *maximowicziana* (Makino) F.Maek.

【種の特性】小形の多年生草本。照葉樹林の湿ったところに生える。茎は地表を長く這って分岐し、群れて生える。葉は単葉で互生、中肋沿いが白い。花は9～10月に5～6花が集まって咲き、萼片は淡紅褐色で、内花被片は白色、虫媒で、風散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】市原市以南に分布するが、例外的に銚子市に産地が知られている。

【保護対策】観賞用目的の採取をしない。

【文献】千植誌 2003: 918, 907

(大場達之／天野誠)



C ハリガネスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	C
2023	C

Carex capillacea Boott

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。マツバスゲ *C. biwensis* Franch. に似るが、果胞は2.5～3.0mmで大きく、熟して開出する。根は乾燥してやや白色を帯びる。[H]

【分布】北海道、本州、九州。朝鮮、中国、インド、オーストラリア。

【県内の状況】県中北部、九十九里平野南部で確認されている。多古町次浦の湿地では、1990年代までマツバスゲ、エゾツリスゲ *C. papulosa* Boott などと混生して多数個体が生育したが、過度の刈り取りにより消滅した。

【保護対策】湧水源付近の環境を維持、保全する。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録: 169 / 谷城勝弘 1992 調査会目録: 165 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原・千葉県自然環境保全学術調査報告書: 7-56 / 調査会目録: 250 / 折目 1994 調査会目録: 110-111 / 調査会目録: 116 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 819

(谷城勝弘)



C ナルコスゲ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	C
	2023	C

【種の特性】多年生草本。溪流のほとりに生える。葉は単葉で互生。風媒で水散布。[H]

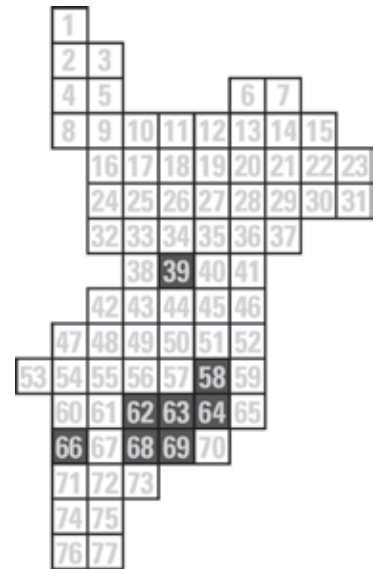
【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県南部の丘陵地の川沿いに生育する。小櫃川上流、養老川上流域には広範囲に群落が形成されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 409 / 大場ほか 1994 市原市の維管束植物・市原市自然環境実態調査報告書 : 322 / 谷城勝弘 1996 調査会
目録 : 118 / 千植誌 2003 : 832

(谷城勝弘)



C ウマスゲ カヤツリグサ科	2009	B
	2017	B
	2023	C

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞は乾くと光沢を失う。風媒で、水散布。[HH]

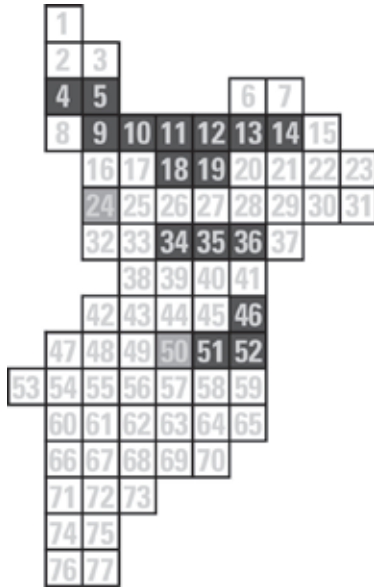
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。中国。

【県内の状況】利根川流域や九十九里平野の低湿地の河川敷に点在する。近年、低湿地の土地改変が著しく、既知生育地の多くは消滅している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 410 / 千植誌 1975 : 456 / 千植誌 2003 : 832,823 / 千植写真 2005 : 370

(谷城勝弘)



C ヤガミスゲ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅 2 ~ 3mm、小穂は接近し、雌雄性。果胞は、卵形、扁平で広い翼があり、3.5mm。柱頭 2。[H]

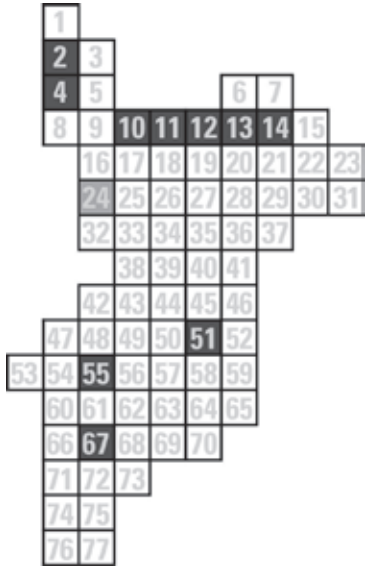
【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】利根川河畔、河川敷に点在するほか、同水系周辺の湿地にもまれに生育する。

【保護対策】定期的な刈り取りなどによる管理を行い、群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 829,822

(谷城勝弘)



C ヌカスゲ カヤツリグサ科	2009	C
	2017	D
	2023	C

【種の特性】多年生草本。林縁または草地性。葉は単葉で互生。基部は光沢のある褐色で繊維に分解しない。雌鱗片に芒がない。風媒で、重力散布。[H]

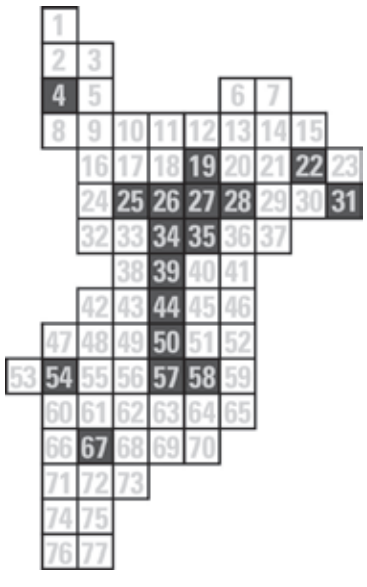
【分布】本州（関東以西）・四国。朝鮮、台湾。

【県内の状況】地域のフロラ調査における多数の記録があるが、ノゲヌカスゲ (var. aristata Ohwi) や他のアオスゲ類の誤同定が多い。酒々井町、市川市の確認標本がある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 838,826

(谷城勝弘)



C タチスゲ カヤツリグサ科

Carex maculata Boott

2009	C
2017	D
2023	C

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。全草粉緑色で柔らかい。小穂はほぼ直立する。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インド。

【県内の状況】九十九里平野中～南部の湿地に点在する。横芝光町、茂原市～長生村の湿地帯には複数の群生地があったが、湿地の放置によるヨシ優占群落への遷移の進行や土地の改変によって適性な環境が急減した。

【保護対策】生育地を良好に維持・保全していくことが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼・千葉県自然環境保全学術調査報告書 / 千植誌 2003：843,846 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物 千葉県自然環境保全学術調査報告書 千葉県環境生活部自然保護課 7-29

(谷城勝弘)



C ミヤマシラスゲ カヤツリグサ科

Carex olivacea Boott var. *angustior* Kük.

2009	C
2017	D
2023	C

【種の特性】多年生草本。森林性（湿所）または湿地性。葉は単葉で互生。シラスゲに似るが、葉は幅広く 8～15mm。小穂は直立し、ほとんど下垂しない。果胞は著しく密接してつき、短い嘴がある。果胞は乾くと黒変する。風媒で、重力散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県南部の丘陵地の谷川沿いの湿地や県北部の台地斜面下の湧水源に点在する。古くは鴨川市嶺岡山で採集された標本がある(1956.5.27 CBM BS-166192)。かつての記録にはシラスゲ *C. doniana* を誤

同定したものも多く含まれる。

【保護対策】生育環境を良好に維持する。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：165 / 谷城 1994 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦の植物：22-44 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物。大栄町史自然編：80-97 / 千植誌 2003：833,823

(谷城勝弘)



C オタルスゲ カヤツリグサ科

Carex otaruensis Franch.

2009	C
2017	D
2023	C

【種の特性】多年生草本。森林の陰湿地または斜面湿地性。葉は単葉で互生。テキリスゲに似るが、基部は赤色を帯びることもある。果胞は長さ 2.5～3mm、葉幅は 3～5mm。風媒で、水散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では初め成田市で確認された(1990.5.3 CBM BS-135131)。本県北東部や中南部にも点在する。山地性要素の種であり、県内では冷涼な環境を反映した分布特性がある。個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：166 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：164 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物。大栄町史自然編：80-97 / 千植誌 2003：830.

(谷城勝弘)



C イトアオスゲ カヤツリグサ科

Carex puberula Boott

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】小型の多年生草本。高さ、10～30cm。匍匐枝は出さない。基部の鞘は淡色。雄小穂は短く、細い。雌小穂の花の数は少なく、数個。雌花穎の芒は短い。花期は、4月～6月。風媒で重力散布。山地の草地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮。

【県内の状況】主に内陸の丘陵地の草地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2013:838 / 日本カヤツリグサ科植物図譜 2011 260-261.

(天野誠)



C	シラコスゲ	カヤツリグサ科	2009	
			2017	D
	<i>Carex rhizopoda</i> Maxim.		2023	C

【種の特性】多年生草本。山間の水湿地に生える。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂は1個で頂生する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】丘陵地の谷間や谷津奥の水湿地、湧水源付近に生育する。個体数は少なく、広範囲に及ぶ群生地はない。県北部では特に生育地の荒廃によって減少傾向が著しい。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：458 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物。大栄町史自然編：80-97 / 千植誌 2003：818,803 (谷城勝弘)



C	ヤブスゲ	カヤツリグサ科	2009	B
			2017	C
	<i>Carex rochebrunii</i> Franch. & Sav.		2023	C

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。マスキサに似るが、果胞は細長く、翼は狭い。柱頭2。低地、風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国。台湾、マレーシア。

【県内の状況】地域のフロラ調査などに記録があるが、マスキサを誤同定したものが多く含まれる。標本は我孫子市、千葉市、佐倉市がある。我孫子市の2個体は消滅した。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。旧生育地では埋土種子からの発生が期待できるので、改変を加えないことが望ましい。

【文献】千植誌 1958：412 / 千植誌 1975：459 / 千葉県誌 2003：829,804 / 千植写真 2005：370 (谷城勝弘)



C	オオクグ	カヤツリグサ科	2009	
			2017	D
	<i>Carex rugulosa</i> Kük.		2023	C

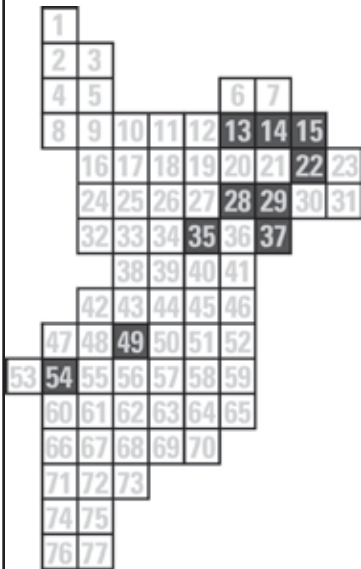
【種の特性】多年生草本。湿地に生育する。葉は単葉で互生。根茎あり。果胞は大きく、コルク質。シオクグに似るが、葉幅は4～10mmで幅広く裏面は粉緑色。海水の出入りする河畔、風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では初め一宮川で発見された。現在、同地では確認できない。香取市から東庄町にかけての河畔に広範な群落がある。本来は汽水域を生育の中心地とするが、多古光湿原や袖ヶ浦市など海岸から離れて生育することがある。このような特異な分布は海進期の遺存と判断され、本種のもつ広範囲の塩分適応性を示唆する。

【保護対策】湿地環境を良好に維持する。

【文献】千植誌 1958：412 / 浅野貞夫 1963 採集ニュース6：21 / 新千植誌 1975：458 / 谷城勝弘 1987 千葉県自然環境保全地域等適地調報：265-291 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 千葉県自然環境保全学術調報：7-56 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦の植物：22-44 / 千植誌 2003：854,847 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1)：9-16 (谷城勝弘)



C	シロジュズスゲ	カヤツリグサ科	2009	C
			2017	D
	<i>Carex subdita</i> Ohwi var. <i>kijozumiensis</i> (Akiyama) Akiyama		2023	C

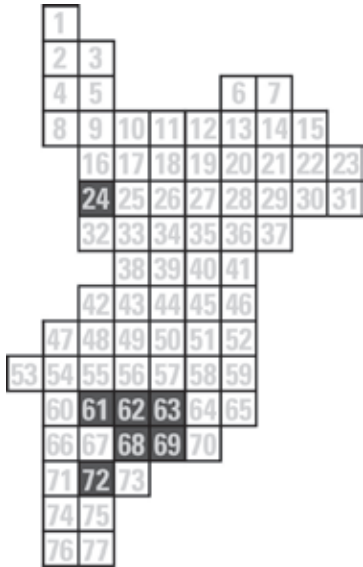
【種の特性】多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。アオヒエスゲ (var. *subdita*) に似るが瘦果は楕円形で先端は短柱状、途中に小盤体があるか、または柱状の先端がやや杯状に広がる。瘦果の中部にくぼみはない。風媒で、重力散布。[H] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（千葉、静岡、愛知）。

【県内の状況】清澄山麓で採集した標本を基に1931年10月に発表した種類である。分布は清澄山系、高宕山系付近に限られ、やや乾いた尾根を中心に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：413 / 大場達之・谷城勝弘・木村陽子 1995 シロジュズスゲの周辺。千植誌資料4：11-16 / 千植誌 2003：841,826 (谷城勝弘)



C ヒメアオガヤツリ カヤツリグサ科

Cyperus extremiorientalis Ohwi

2009	C
2017	D
2023	C

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂の鱗片は2列につき、果実の縁は鋭形で翼状にならないのでシロガヤツリと区別される。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。

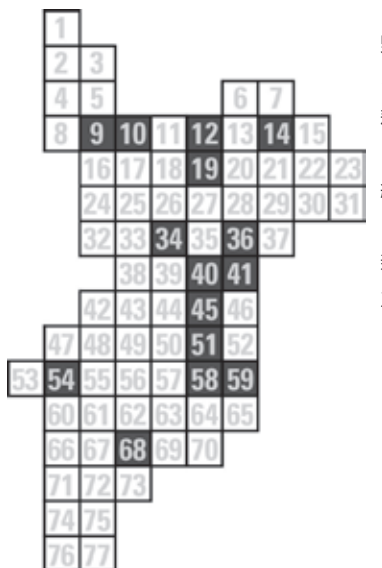
【県内の状況】利根川や九十九里平野に点在する。県中南部の干上がったため池には大群生する所もある。生育地ではシロガヤツリ *C. pacificus*、アオガヤツリ *C. nipponicus* などの他のアオガヤツリ類と

しばしば混生する。九十九里平野、茂原市、長生村を中心とする地域では稲刈り後の水田や休耕田に多産する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 413 / 新千植誌 1975: 459 / 千植誌 2003: 896

(谷城勝弘)



C ミズハナビ カヤツリグサ科

Cyperus tenuispica Steud.

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】小型の多年生草本。茎は叢生する。葉は線形。小穂は、数個、掌状に付く。鱗片は、赤味を帯び、先端はほぼ切形。風媒で、重力散布。花期は、7月～11月。湿地に生育する。[H]

【分布】本州、四国、九州。

【県内の状況】主に北総から南総東部の湿地に生育する。

【保護対策】生育地の湿地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:414 / 千植誌 2003:896 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 34

(天野誠)



C オオアゼテンツキ カヤツリグサ科

Fimbristylis bisumbellata (Forsk.) Bubani

2009	C
2017	D
2023	C

【種の特性】多年生草本。湿地性葉は単葉で互生。メアゼテンツキ *F. velata* Franch. に似るが、鱗片は光沢のある褐色で、背側には緑色の竜骨がある。果実は 0.5～0.7 mm で白黄色、表面に格子状の紋がある。風媒で、重力散布。[Th]

【分布】本州（千葉県）・琉球。地中海沿岸、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】市原市、印旛沼周辺、利根川河川敷、袖ヶ浦市、市川市、船橋市で確認されている。造成後間もない湿地に発生することから、帰化（移入）種と類似した性質を備えるが、すでに市原市では 1954 年に採集しており、古くから土着していた。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 オオアゼテンツキ. 植物研究雑誌 65(12): 6-7 / 谷城勝弘 1991 千葉県のオオアゼテンツキ スゲの会会報 2: 9-12 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物. 印旛沼—自然と文化—: 19-24 / 岩瀬徹 1996 調査会目録: 2 / 川名興 1996 調査会目録: 36 / 千植誌 2003: 865,869

(谷城勝弘)



C ナガボテンツキ カヤツリグサ科

Fimbristylis longispica Steud.

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】多年生草本。湿地性。(汽水域または海岸域)。葉は単葉で互生。70～80cm。花序は2～4回分岐し、小穂は熟して黄褐色。果実の表面は四角形の編み目模様。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】富津岬及び一宮川、栗山川、江戸川の河口などに記録があるが、近年は確認されていない。湿地の環境変化や遷移の進行によって消滅した可能性が高い。1990年に利根川河口堰直下の河畔でまとまった群落が発見された。小櫃川河口の湿地には少数個体が生育を維持している。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。現生育地は環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 416 / 新千植誌 1975: 461 / 藤平・岩瀬ほか 1996 小櫃川河口域。千葉県自然環境保全学術調報: 111-208 / 千植誌 2003: 865,870 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1): 9-16

(谷城勝弘)

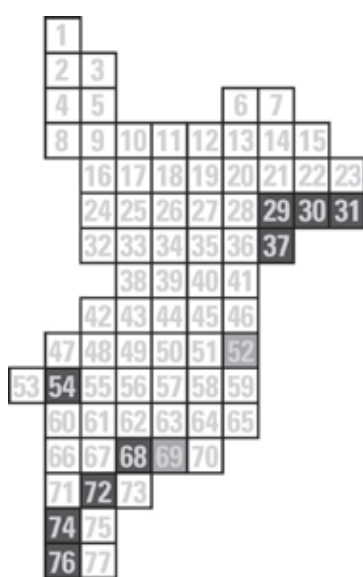


C	ビロードテンツキ	カヤツリグサ科	2009	C
			2017	C
	<i>Fimbristylis sericea</i> (Poir.) R.Br.		2023	C

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。茎と葉に細毛を密生。熟した果実は褐色～黒褐色で表面は平滑。海岸性（海辺の砂地）。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】銚子市、九十九里平野沿岸、館山市、富津市以南の内房沿岸に複数の記録があり、標本が得られている。九十九里平野沿岸では護岸工事に伴う砂浜の改変で本種の生育に適した環境が急減している。海岸域の環境変化が進行する中で減少傾向の顕著な種類である。



は護岸工事に伴う砂浜の改変で本種の生育に適した環境が急減している。海岸域の環境変化が進行する中で減少傾向の顕著な種類である。

【保護対策】安定した砂丘群落を維持するよう配慮することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：416 / 新千植誌 1975：461 / 千植誌 2003：863,852

(谷城勝弘)

C	クロヒロハイヌノヒゲ	ホシクサ科	2009	C
			2017	D
	<i>Eriocaulon robustius</i> (Maxim.) Makino var. <i>nigrum</i> Satake		2023	C

【種の特性】一年生草本。湿地性（水田、休耕田を含む）。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。ヒロハイヌノヒゲに似るが花苞や萼の上部が黒色を帯びる。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】ヒロハイヌノヒゲと同所的に生育し、少数個体が混生して確認されることが多い。本種の生育可能な湿地環境は激減している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。



【文献】折目 1993 調査会目録：152 / 折目 1993 富里の植物：112 / 千植誌 2003：711,700

(谷城勝弘)

C	イヌイ	イグサ科	2009	
			2017	C
	<i>Juncus fauriei</i> H.Lév. & Vaniot		2023	C

【種の特性】中型の多年生草本。根茎は太く直径2～4mm。茎は20～40cm、平たくて、振れる。葉は葉身を欠く。雄しべは、6本。果実は、長卵形で先は尖る。長さ4～5mm。花期は、5月～7月。虫媒で、風散布。海岸砂地や山間の湿地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・九州。千島、サハリン。

【県内の状況】主に九十九里海岸および木更津市から富津市にかけての海岸に分布する。山武市から市原市の山間の湿地にも生育する。



【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:406 / 新千植誌 1975:452 / 千植誌 2013:708 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:289

(天野誠)

C	ヤマスズメノヒエ	イグサ科	2009	
			2017	C
	<i>Luzula multiflora</i> (Ehrh.) Lejeune		2023	C

【種の特性】中型の多年生草本。叢生する。茎の断面は三角形。高さ20～40cm。茎葉は2～3個、長さ5～10cm。花序は3から10個の小花序を付ける。雄しべは、6本。花期は、5月～7月。虫媒で、重力散布。山間の草地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリヤ、北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリア。

【県内の状況】主に北総台地に分布する。



【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 406 / 新千植誌 1975 452 / 千植誌 2013 708 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:293

(天野誠)

C ヌカボシソウ イグサ科

Luzula plumosa E.Mey.

2009	
2017	C
2023	C

【種の特性】 小型の多年生草本。叢生する。茎の断面は三角形。高さ 15～25cm。茎葉は 2～3 個、長さ 2～6 cm。花序に 3～14 個の花を付ける。雄しべは、6 本。花期は、4 月～5 月。虫媒で、重力散布。山間の草地に生育する。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。中国、インド、ネパール。

【県内の状況】 主に市原市から鴨川市にかけての丘陵地に分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:406 / 新千植誌 1975:452 / 千植誌 2013:708 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016:292

(天野誠)



C ハイチゴザサ イネ科

Isachne nipponensis Ohwi

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】 多年生草本。這った稈の節部から発根し、チゴザサに比べて稈高 5～10 cm と低く、小穂も小さく、小穂の柄に腺が無い。苞穎の背の上半部には長毛がまばらにある。花期は 9～10 月。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、中国。

【県内の状況】 清澄、上総丘陵など暖地の湿った林中や路傍。あるところには群生するので、個体数は多い。

【保護対策】 山中の湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003：762, 752

(木村陽子／天野誠 追補)



C ヒメコヌカグサ イネ科

Agrostis valvata Steud.

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】 多年生草本。根茎は発達しない。谷津田の水湿地にみられる。花序は半輪生でまばらにみえる。小穂は淡緑色で、赤紫色に染まることがある。小花が苞穎より突き出しているのが特徴。花期は 5～6 月。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 全国的にみて少ないが、千葉県では北西部の湿地またはコナラの二次林に点々とみられる。

【保護対策】 生育環境である湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003:732, 733

(木村陽子)



C ササクサ イネ科

Lophatherum gracile Brongn.

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】 小型の多年生草本。風媒で付着散布。ササの葉を思わせる葉には平行脈のほか、横脈が顕著。熟すと逆刺のある芒が衣服などに引っかかり運ばれる。

【分布】 本州（茨城県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、東南アジア。

【県内の状況】 主として北部のアカマツ林や疎林の林床に生える。

【保護対策】 下刈りの行なわれる明るい林を良好に維持・管理することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：715, 717

(木村陽子)



C ツルヨシ イネ科	2009	
	2017	C
<i>Phragmites japonicus</i> Steud.	2023	C

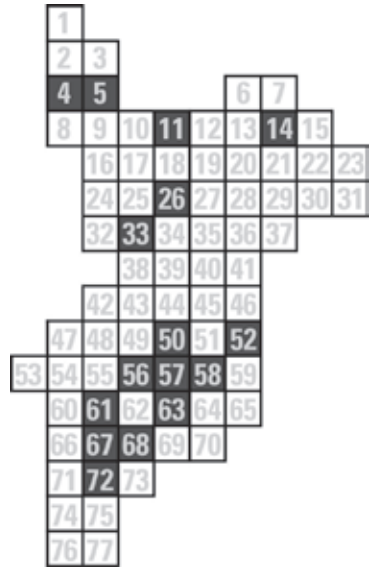
【種の特性】大型の多年生草本。高さ1.5～3m。長い地上性の匍匐枝があ李、節に毛が生える。第一包穎は護穎の半分より長い。小穂は8から12mm。花期は、8月～10月。風媒で、風散布。川岸に生育する。ツルヨシ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】千葉県各地に散在する。柏市で2004年7月30日に採集された標本（CBM BS-371598）と佐倉市で1996年12月1日に採集された標本（CBM BS-117667）と富津市で1997年10月30日に採集された標本（CBM BS-147226）などがある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千新千植誌 1975:470 / 千植誌 2013:808 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:74
(天野誠)



C セイタカヨシ イネ科	2009	C
	2017	C
<i>Phragmites karka</i> (Retz.) Trin. ex Steud.	2023	C

【種の特性】大型の多年生草本。稈は高さ2～4mにもなり、太さも2cmほどになり木化して硬くなる。葉先が垂れないで上を向く。稈の途中の節から枝を出す。花序も30～70cmと大形。小穂の長さは5～8mmで、ヨシより小さい。花期はヨシより遅く9～12月。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】北部には多いが、南部からの記録は少ない。川岸、河川敷に生育。近年、産地の確認が増えている。

【保護対策】河原・川岸を自然状態に保つなど生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:743, 736
(木村陽子)



C シブヤザサ イネ科	2009	
	2017	C
<i>Pleioblastus shibuyanans</i> Makino ex Nakai	2023	C

【種の特性】大型の竹笹類。高さ2～3m。稈は無毛。葉鞘も同様。葉身は披針形で、黄緑色、先端は下垂しない。葉の両面は無毛。風媒で、重力散布。海岸付近の林縁に生育する。[M]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】主に南総の海岸付近に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:474 / 千植誌 2013:808 / 日本タケ科植物図鑑 1996:173
(天野誠)



C ウキシバ イネ科	2009	C
	2017	C
<i>Pseudoraphis ukishiba</i> Ohwi	2023	C

【種の特性】多年生草本。水湿地や池に生育。風媒で水散布。稈は水中に伸びるが、花序は空気中に出し成熟すると下に曲がり水没するイネ科では珍しい水草。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮南部、中国。

【県内の状況】県内に散在する。市川市・柏市から北総を経て長生郡、大多喜町に至る。1996年には印西市、大多喜町、袖ヶ浦市で記録されている。千葉県立中央博物館の舟田池改修（1989年）の際に埋土種子から発芽したと思われるものが数10㎡四方に広がり開花結実したことがある。

【保護対策】池や沼などの生育環境を良好に維持。

【文献】千植誌 2003:770, 776
(木村陽子)



2009	
2017	C
2023	C

Sasaella ramose (Makino) Makino

【種の特性】 中型の竹笹類。高さ 1 ～ 2m。上方で枝を分枝する。枝は 1 節から 1 ～ 3 本出る。稈鞘は無毛。葉鞘も同様。葉身は長楕円状披針形で、先端は急に尖る。葉の下面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。林縁に密生する。[N]

【分布】本州。

【県内の状況】 主に北総の丘陵地に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:428 /
新千植誌 1975:474 / 千植誌
2003:807 / 日本タケ科植物図
鑑 1996:145 / 改訂新版日本の
野生植物 2 2016:37

(天野誠)



2009	C
2017	C
2023	C

Ceratophyllum demersum L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。茎の先端は冬に切れ落ちて沈み冬芽として越冬する。茎はもろく折れやすい。葉は羽状複葉で一節に5～12葉を輪生。葉は長さ1.5～2.5cmで、裂片は2又状に分岐し先端は針状に尖る。花は雌雄異花で葉腋に1個ずつつく。水媒で水散布。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】利根川水系と九十九里低地の池・沼に知られていたが印

旂沼などでは水質悪化で絶滅している。市原市、君津市などの報告もある。

【保護対策】 自然的な池・沼の水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：203,209
(大場達之／天野誠)



2009	C
2017	C
2023	C

Coptis japonica (Thunb.) Makino

【種の特性】小型の常緑多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で重力散布。これまでセリバオウレンとされてきたものであるが、葉の切れこみ方からするとコセリバオウレンにあたる。千葉県にはオウレンも見られるが古い時代における薬用栽培の名残と考えられる。最近になって、県南部のものはコセリバオウレン、県北部のものはセリバオウレンであることが判明した。[H] シキミーモミ群集など。

【分布】本州（太平洋側）。

【県内の状況】清澄山系を中心とする比較的高い標高の丘陵地に生育する。

【保護対策】生育地の森林環境を良好に維持すると同時に、シカの食害を回避する方策を検討することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：186, 194
(大場達之／谷城勝弘 追補)



2009	C
2017	C
2023	C

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai f. *variegata* (Makino) Nakai

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は3裂し根生。虫媒で重力散布。
低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州。

【**県内の状況**】 県内では房総丘陵と下総台地に隔離遺存する。房総丘陵では乾いた尾根沿いのコナラ林などに生え、萼片が白色または淡紅色であるが、下総台地では谷津のやや湿った北斜面に生え、白色花のみである。

【保護対策】生育地を保全し、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1977 千葉県産はミスミソウかスハマソウか. 植物採集ニュース 94: 121
／千植誌 2003: 188, 196
(大場達之／谷城勝弘 追補)



C コキツネノボタン キンボウゲ科

Ranunculus chinensis Bunge

2009	A
2017	B
2023	C

【種の特性】中～やや大型の多年生草本または一年生草本。葉は互生し3出状に裂ける。

【分布】本州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー、中央アジア。

【県内の状況】利根川水系の冠水草原にまれではなかったが、河川の氾濫原の開発・利用によって著しく少なくなっている。一方水鳥によって種子が散布されるので、県立中央博物館の舟田池の湿地のようところに突然出現したりする。[H]。

【保護対策】河川氾濫源を自然に保つ。

【文献】千植誌 2003：198,206
(大場達之／谷城勝弘 追補)



C モクレイシ ニシキギ科

Microtropis japonica (Franch. & Sav.) Hallier f.

2009	C
2017	D
2023	C

【種の特性】常緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。[N] カクレミノースダジイ群目

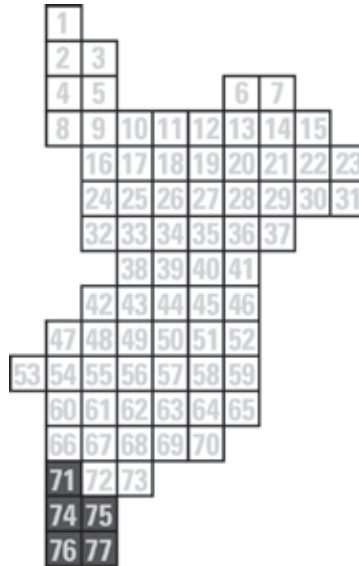
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】照葉樹林に生え、安房丘陵に多く分布する。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：353, 358

(大場達之／天野誠)



C ムカゴネコノメ ユキノシタ科

Chrysosplenium maximowiczii Franch. & Sav.

2009	C
2017	C
2023	C

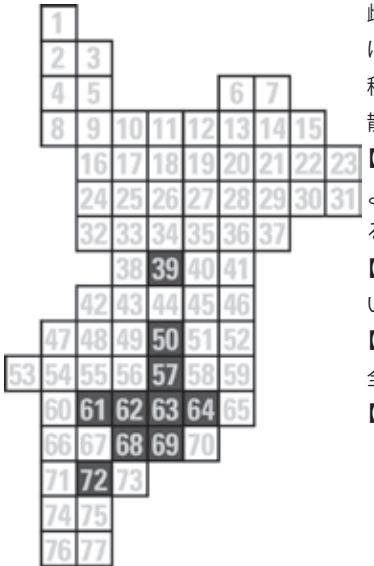
【種の特性】夏緑性の小型多年生草本。高さ3～7cm。湿った谷の日陰の腐植質の多いところに生える。地上をはう長い走出枝には、花茎とほぼ同じ葉を付ける。地下の走出枝の先には長さ3～10mmの紡錘形の繁殖体をつける。茎は四稜形で十字対生。葉は扇形で、円鋸歯が2対あり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ8～18mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は広楕円形、円頭、長さ1.5～2mm、緑色。花弁はない。雄しべは8本。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[H]

【分布】本州（関東地方南部および東海地方の低地に特産する）。

【県内の状況】南総の主に川沿いに分布する。

【保護対策】生育地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：255,263
(大場達之／天野誠 追補)



C ノウルシ トウダイグサ科

Euphorbia adenochlora C.Morren & Decne.

2009	C
2017	C
2023	C

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。[G] オギーヨシ群団。

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】利根川、江戸川水系に自生が認められる。

【保護対策】河川氾濫原の保全を図る必要がある。

【文献】千植誌 2003：328, 333

(大場達之／天野誠)



C ミズオトギリ オトギリソウ科

2009	C
2017	C
2023	C

Triadenum japonicum Makino

【種の特性】 多年生草本。湿地性（池沼や湿原）。地下茎は匍匐する。茎は円柱形。葉は全面に明点がある。花序は短く、葉腋や柄の先につく。花弁は紫紅色を帯びる。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】 県内複数箇所に分布するが、少ない。多古光湿原に多産する。

【保護対策】 本種の他に複数の希少種を多産する多古光湿原を保護指定地とし、刈り取り管理を継続して小型草本の生育を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：217,221
(谷城勝弘)



C フモトスミレ スミレ科

2009	C
2017	D
2023	C

Viola pumilio W.Becker

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は暗緑色～濃緑色で裏面は紫色を帯びる。葉の表面基部に疎らに開出毛がある。唇弁は上弁や側弁より小さめで紫色のすじがある。虫媒で虫散布。[H] ケヤキ群団。

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 全域に点在するが、特に清澄山周辺に多い。林内や林縁、ときに草地に生える。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：379,385
(谷城勝弘)



C アツバスミレ スミレ科

2009	
2017	C
2023	C

Viola mandshurica W.Becker var. *triangularis* (Franch. & Sav.) M.Mizush.

【種の特性】 小型の多年生草本。高さ、5～10cm。葉は根生する。葉が厚く、表面に光沢がある。花は径2cm、紫色。花期は、3月～4月。虫媒で、自動散布。海岸の砂浜や岩場などに生育する。[H]

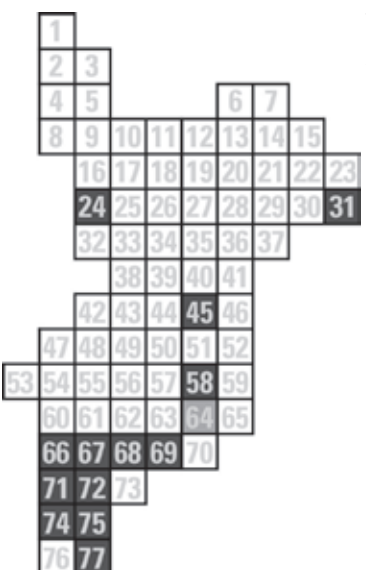
【分布】 本州（関東南部、伊豆半島、伊豆諸島）。

【県内の状況】 主に安房地方および銚子の海岸に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:352 / 新千植誌 1975:396 / 千植誌 2003:379 / 改訂新版日本の野生植物 3
2016:217

(天野誠)



C タヌキマメ マメ科

2009	C
2017	C
2023	C

Crotalaria sessiliflora L.

【種の特性】 中型の一年生草本。茎は直立し高さ20～70cm。葉は単葉で互生。花は7～9月に咲き、腋生の総状の花序に密につき花弁は萼片より短く青紫色。虫媒で重力散布。果実は長毛が密布した萼におおわれているのが特徴である。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 県内ほぼ全域に点々と分布する。日当たりの良い草地の中の小裸地や道ばたに生え、湿原の周辺にも見られる。

【保護対策】 自然的な草地を保全する。

【文献】 千植誌 2003：299,304
(遠藤泰彦／大場達之 追補)



C	オオバヌスビトハギ	マメ科	2009	C
			2017	C
			2023	C

Hylodesmum laxum (DC.) H.Ohashi & R. R. Mill

【種の特性】常緑多年生草本で茎の基部は木質。湿ったスダジイなどの林下あるいは林縁に生育する。

葉は3出複葉で茎下部に集まってつく。花は8～10月に咲き、花序は総状で長さ10～30cmで軸は細い。花は淡紅紫色。果実にかぎ毛がある。虫媒で付着散布。[H] 別名サイコトキワヤブハギ。

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州。台湾、インド、マレーシア。

【県内の状況】県中央部から南部に点々と分布する。

		【文献】千植誌 2003 : 297, 306	
		(遠藤泰彦／大場達之 追補)	
1			
2	3		
4	5		
8	9	10	11
		12	13
		14	15
		16	17
		18	19
		20	21
		22	23
		24	25
		26	27
		28	29
		30	31
		32	33
		34	35
		36	37
		38	39
		40	41
		42	43
		44	45
		46	
		47	48
		49	50
		51	52
53	54	55	56
		57	58
		59	
		60	61
		62	63
		64	65
		66	67
		68	69
		70	
		71	72
		73	
		74	75
		76	77

C	ウスバラセイタソウ	イラクサ科	2009	
			2017	C
			2023	C

Boehmeria tenuifolia Satake

【種の特性】大型の多年生草本。高さ、50～150cm。葉は卵形から卵状楕円形で、鋭角の鋸歯を持つ。花期は、7月～9月。重力散布。林縁の道端に生育する。[H]

【分布】本州。

【県内の状況】主に南総の丘陵地や海岸付近に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 130

(天野誠)

		【文献】千植誌 2003 : 130	
		(天野誠)	
1			
2	3		
4	5		
8	9	10	11
		12	13
		14	15
		16	17
		18	19
		20	21
		22	23
		24	25
		26	27
		28	29
		30	31
		32	33
		34	35
		36	37
		38	39
		40	41
		42	43
		44	45
		46	
		47	48
		49	50
		51	52
53	54	55	56
		57	58
		59	
		60	61
		62	63
		64	65
		66	67
		68	69
		70	
		71	72
		73	
		74	75
		76	77

C	イヌハギ	マメ科	2009	B
			2017	C
			2023	C

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

【種の特性】夏緑半低木。茎は高さ80～150cmで黄褐色の毛が密にある。葉は3出複葉で互生。花は7～9月に咲き、白い花を長い総状花序につける。開放花と閉鎖花をつける。虫媒で鳥散布。[H～Ch]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、ヒマラヤ。

【県内の状況】県北部を中心に点々と川原、草地、道端、造成地などに見られる。館山市でも記録されている。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 296, 305。

		【文献】千植誌 2003 : 296, 305。	
		(遠藤泰彦／大場達之 追補)	
1			
2	3		
4	5		
8	9	10	11
		12	13
		14	15
		16	17
		18	19
		20	21
		22	23
		24	25
		26	27
		28	29
		30	31
		32	33
		34	35
		36	37
		38	39
		40	41
		42	43
		44	45
		46	
		47	48
		49	50
		51	52
53	54	55	56
		57	58
		59	
		60	61
		62	63
		64	65
		66	67
		68	69
		70	
		71	72
		73	
		74	75
		76	77

C	キミズ	イラクサ科	2009	C
			2017	C
			2023	C

Pellionia scabra Benth.

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。千葉県のものはキミズではなく、茎が木化しないのでキミズモドキ *Pellionia japonica* Hatus. であるとする見解がある。[Ch ?]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵と安房丘陵に群れて生える。

【保護対策】自生環境を保全する（周辺で何らかの自然変行為があっても、キミズの存続に支障のない範囲にとどめる）。

【文献】千植誌 2003 : 126, 123

(大場達之／天野誠)

		【文献】千植誌 2003 : 126, 123	
		(大場達之／天野誠)	
1			
2	3		
4	5		
8	9	10	11
		12	13
		14	15
		16	17
		18	19
		20	21
		22	23
		24	25
		26	27
		28	29
		30	31
		32	33
		34	35
		36	37
		38	39
		40	41
		42	43
		44	45
		46	
		47	48
		49	50
		51	52
53	54	55	56
		57	58
		59	
		60	61
		62	63
		64	65
		66	67
		68	69
		70	
		71	72
		73	
		74	75
		76	77

C カシワ ブナ科

2009	C
2017	C
2023	C

Quercus dentata Thunb. ex Murray

【種の特性】夏緑高木。北海道では砂丘や火山灰地などに見られるが、千葉県ではシイ・カシ帯の海岸の崖などにも生える。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。[N～M] ブナ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】海岸近くの崖、稜線などに点々と見られる。県北部では植栽されたものと自生との見分けが難しい。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：111, 108
(大場達之／天野誠)



C ツクバネガシ ブナ科

2009	C
2017	C
2023	C

Quercus sessilifolia Blume

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。葉は広披針形で、葉柄は短く、全縁または先端部に少数の鋸歯がある。風媒で重力散布。[MM] シラカシーウラジロガシ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵南部に分布するが、鴨川低地以南には記録がない。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：112, 117

(大場達之／天野誠)



C ミズマツバ ミソハギ科

2009	
2017	C
2023	C

Rotala pusilla Tulasne

【種の特性】小型の一年生草本。茎は地をはい、分枝して、高さ3～10cm。葉は線形で、3、4枚輪生する。花は葉腋に1個付く。萼片三角形で5枚、花弁はない。果実は球形。花期は、8月～10月。虫媒で、風散布。水田や湿地に生育する。ヒルムシロ群綱。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、フィリピン、インド、西アジア、アフリカ、中央アメリカ。

【県内の状況】主に北総と南総の平野の水田に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:349 / 新千植誌 1975:394 / 千植誌 2003:392 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:259

(天野誠)



C ミズキンバイ アカバナ科

2009	B
2017	B
2023	C

Ludwigia peploides (Ohwi) Ohwi

【種の特性】高さ30～50cmの夏緑の多年生草本。主として海岸近くの明るい水湿地に生育する。地下茎で繁殖する。茎の基部はしばしば匍匐し、不定根を伸ばす。葉は楕円形で、円頭、互生、基部は楔形で、短い葉柄がある。葉は全縁で、無毛。花は上部の葉腋に単生する。花は通常5数性で、萼片は披針形で長さ約10mm、花弁は、広倒卵形で円頭、長さ11～14mm。果実は蒴果で、円筒形、果時に萼片が残る。上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】九十九里平野や房総半島南端部に分布するが、かつては東京湾側の平地にも分布した。

【保護対策】湿地の保全。

【文献】千植誌 2003：395, 398

(天野誠)



C	フユザンショウ ミカン科	2009	C
		2017	C
		2023	C

Zanthoxylum armatum DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。[N]
 【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。
 【県内の状況】房総丘陵に自生するが、開花結実するような株は少ない。
 【保護対策】自生環境の保全。
 【文献】千植誌 2003：341, 336

(大場達之／天野誠)

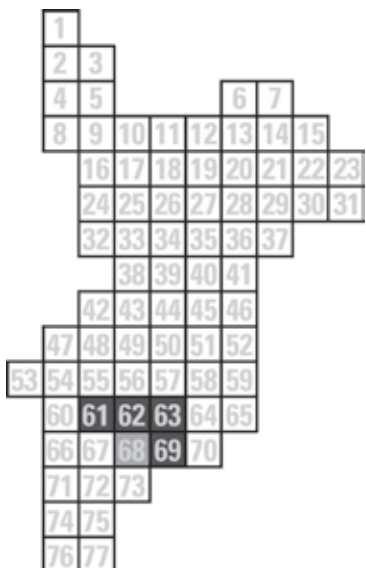


C	チドリノキ ムクロジ科	2009	C
		2017	C
		2023	C

Acer carpinifolium Siebold & Zucc.

【種の特性】夏緑中高木。葉は3出複葉で対生。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[M] サワグルミ群団。
 【分布】本州・四国・九州。
 【県内の状況】清澄山、高宕山、市原市などの報告がある。公園・街路などに植えられることもあるが、指定は自生個体のみである。
 【保護対策】自生地環境の保全。
 【文献】千植誌 2003：347, 339

(大場達之／天野誠)



C	マルバコンロンソウ アブラナ科	2009	B
		2017	B
		2023	C

Cardamine tanakae Franch. & Sav. ex Maxim.

【種の特性】小形の多年生草本。葉は羽状複葉で根際および茎下部に集まってつき羽状複葉、白い毛がある。花は4～5月。白色。虫媒で自散布。[H] 低地遺存ブナ帯要素。
 【分布】本州・四国・九州。
 【県内の状況】房総丘陵の沢沿いの湿って肥沃な林に生えるが少ない。
 【保護対策】稀な生物が集まって生活する沢沿いの環境空間の体系的保全方策を練るべきである。
 【文献】千植誌 2003：247, 243

(大場達之／天野誠)

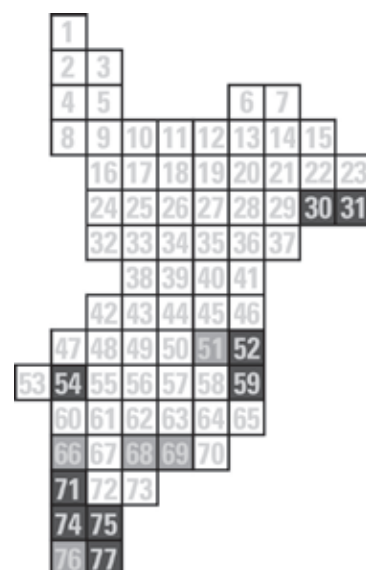


C	ハマハタザオ アブラナ科	2009	C
		2017	C
		2023	C

Arabis stelleri DC. var. *japonica* (A.Gray) F.Schmidt

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。ハマハコベ－ハマニンニク群目。[H]
 【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、アムール。
 【県内の状況】砂浜に生える植物で九十九里には多かったが海岸の改変で少なくなっている。館山市にもある。
 【保護対策】自然な砂浜を汀線からクロマツ林まで植生の配置を残して保全する。

【文献】千植誌 2003：236, 239
 (大場達之／天野誠)



C イヌナズナ アブラナ科

2009	
2017	C
2023	C

Draba nemorosa L.

【種の特性】 小型の一年生草本。高さ 10 ～ 30cm。茎は 1 本か基部で分枝する。葉は、狭卵形で、星状毛がある。長さ 10 ～ 30mm。花は黄色。長い柄の先に長楕円形の短角果が付く。虫媒で、重力散布。花期は、4 月～ 5 月。乾いた道端や河川敷に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】 主に県北西部と南部の丘陵に分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:418 / 千植誌 2003:236 / 改訂新版日本の野生植物 3 2017:61 (天野誠)



C シナノキ アオイ科

2009	C
2017	D
2023	C

Tilia japonica (Miq.) Simonkai

【種の特性】 夏緑高木。ブナ帯の夏緑林を構成する高木で岩場などにも見られるが千葉県ではシイ・カシ帯に生える。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。[MM] ブナ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 房総丘陵の急斜面または尾根筋などの夏緑林に見られるほか、県北部低地の林にも生える。県北の一部産地のものは逸出の可能性はある。南部では清澄山系、高宕山系、鋸山系及び大多喜町で採

集されているほか、県北では柏市、成田市、富里市などから記録がある。

【保護対策】 生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 398 / 千植誌 2003 : 368,361 (大場達之／天野誠)



C コガンピ ジンチョウゲ科

2009	B
2017	C
2023	C

Wikstroemia gampi (Siebold & Zucc.) Maxim.

【種の特性】 夏緑小低木。葉は単葉で互生し、白みを帯びた緑色。花は 7 ～ 9 月に咲き、花冠は筒状で先端は 4 裂し、薄く紅を帯びた白色。虫媒で重力散布。ススキ群綱。[Ch?]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 乾いたススキ草原などに生え、かつては広く見られたが現在は稀である。

【保護対策】 半自然草原を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 373,364 (大場達之／天野誠)



C ヤドリギ ヤドリギ科

2009	
2017	C
2023	C

Viscum album L. subsp. *cloratum* Komar.

【種の特性】 小型の常緑性半寄生植物。雌雄異株。ケヤキやエノキやサクラに寄生する。枝は二叉分枝し、2 つの葉を付ける。葉は肉厚で、長楕円形。花は枝先に数個付ける。液果は丸く通常クリーム色。キレンジャクなどの鳥が食べて、種子を散布する。花期は、3 月。鳥媒で、鳥散布。[E]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】 主に北総と南総の平野の樹上に寄生する。

【保護対策】 寄生樹を良好に維持することが望ましい。

【文献】 植誌 1958:389 / 新千植誌 :1975 434 / 千植誌 2003 :132 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:78 (天野誠)



C	ホソバノハマアカザ	ヒユ科	2009	
			2017	D
	<i>Atriplex gmelinii</i> C.A.Mey.		2023	C

【種の特性】一年生草本。高さ、30～90cm。葉は長披針形で、長さ2～9cm。全縁か多少の波状の歯牙がある。葉は無毛で、白粉を帯びる。雌雄同株。雌花の小苞は、2枚、菱状三角形。果期に大きくなって、胞果を包む。花期は、8月～10月。風媒で重力散布。海岸の砂泥地に生育する。オカヒジキ群綱。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア北東部。

【県内の状況】主に内房の砂泥地に生育する。



【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:384 / 新千植誌 1975:429 / 千植誌 2003:168 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:135

(天野誠)

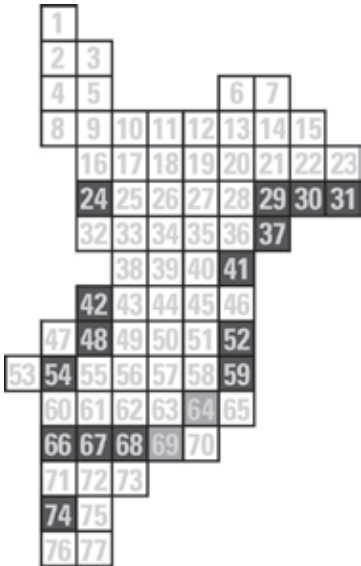
C	マルバアカザ	ヒユ科	2009	
			2017	D
	<i>Chenopodium acuminatum</i> Willd.		2023	C

【種の特性】一年生草本。高さ、20～60cm。葉は広卵形で、やや厚く、縁に薄い半透明の縁取りがある。長さ2.5～6cm。花序は、密生して、軸に管状の半透明の毛がある。花期は、7月～10月。風媒で重力散布。海岸の砂浜に生育する。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、シベリア、モンゴル。

【県内の状況】主に外房と九十九里の砂浜に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。



【文献】千植誌 1958:385 / 新千植誌 1975:429 / 千植誌 2003:166 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:138

(天野誠)

C	フシグロセンノウ	ナデシコ科	2009	C
			2017	C
	<i>Lychnis miqueliana</i> Rohrb.		2023	C

【種の特性】高さ50～80cmの夏緑の多年生草本。適湿の林縁の草地斜面に生育する。1～数本の茎を立てる。茎は円筒形で十字対生、節の所は紫色を帯びる。葉は楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、ほぼ無柄。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は頂生および上部の葉腋につく。花は5数性で、萼片は癒着して円筒形になる。花弁は、広倒卵形で先端はわずかに凹凸があり、鮮やかな赤橙色で、長さ20～30mm、長い爪がある。果実は蒴果で、円筒形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。

[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】主として北総台地の谷津に分布する。

【保護対策】園芸目的の採取をおこなわない。

【文献】千植誌 2003:153,163 (大場達之／天野 誠 追補)



C	コモウセンゴケ	モウセンゴケ科	2009	C
			2017	C
	<i>Drosera spatulata</i> Labill.		2023	C

【種の特性】食虫性の小型の多年生草本。日当たりのよい崖などに生えたものは葉が濃い赤に染まる。葉は単葉で互生。花茎は直立し上部は螺旋状、花は紅紫色で5弁。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州（東北南部以南）・四国・九州・琉球。台湾、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】かつては道ばたの崖などに一面に生えていたが、現在はそのような生育地はほとんど見られなくなった。

【保護対策】観賞用などの採集をしない。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1978 Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7: 188-193 / 千植誌 2003: 220, 223

(大場達之／天野誠)



C	ヒメタデ	タデ科	2009	C
			2017	D
			2023	C
<i>Persicaria erecto-minor</i> (Makino) Nakai				

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は曲がり、上部は疎らに分岐する。葉は披針形で先は鋭尖形、上面は無毛で下面脈上に疎らに短毛がある。花穂は直立し短円柱状、長さ 1.5 ～ 2cm。密に多数の淡紅色の花をつける。花が白～緑白色のものをアオヒメタデ (form. *viridiflora* I. Ito) という。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川流域に記録がある。本県にはアオヒメタデが生える。

【保護対策】生育適地となる湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158
(谷城勝弘)



C	サデクサ	タデ科	2009	
			2017	D
			2023	C
<i>Persicaria maackiana</i> (Regel) Nakai				

【種の特性】一年生草本。高さ、30 ～ 100cm。茎には逆棘があり、他の植物にはい登る。葉は細いほこ形、葉身は長さ 3 ～ 10cm。頭状花序に 2 ～ 8 個の桃色の花が付く。花期は、7 月～ 10 月。虫媒で重力散布。湿地に生育する。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】主に北総の水辺に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:330 / 新千植誌 1975:376 / 千植誌 203:505 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017:132

(天野誠)



C	ヌカボタデ	タデ科	2009	C
			2017	C
			2023	C
<i>Persicaria taquetii</i> (H.Lév.) Koidz.				

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎は細く、下部は地をほう。葉は薄く疎らに毛がある。托葉鞘は筒状で等長の縁毛がある。花序は疎ら。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】県北部の低地に複数の記録があるが少ない。

【保護対策】本種の生育適地となる湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158

(谷城勝弘)



C	ホソバイヌタデ	タデ科	2009	C
			2017	C
			2023	C
<i>Persicaria trigonocarpa</i> (Makino) Nakai				

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎は疎らに分岐し赤褐色を帯びる。葉は両面の縁に近い脈上に短毛があり、下面に盤状の腺点がある。

【分布】北海道・本州（関東地方）。中国、ウスリー、朝鮮。

【県内の状況】利根川、江戸川、栗山川流域にあるが、少ない。

【保護対策】生育適地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158

(谷城勝弘)



C キヨスミミツバツツジ ツツジ科

2009	C
2017	C
2023	C

Rhododendron kiyosmense Makino

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で3輪生。虫媒で、風散布。[N]

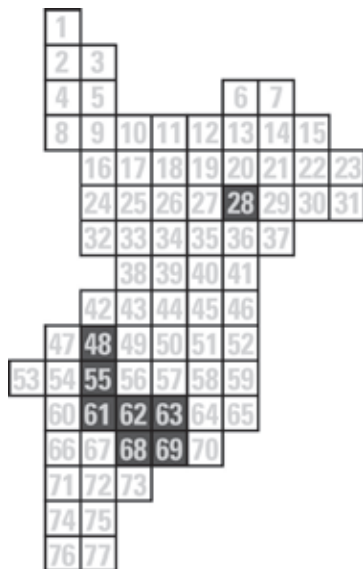
【分布】本州（関東、中部、近畿）。

【県内の状況】尾根筋の乾いた林や岩場に生える。

【保護対策】自然の林内に移植している例もあるが、本来の生育地を超える範囲への移植は慎重に行う必要がある。

【文献】千植誌 2003：432, 420

(大場達之／天野誠)



C ノジトラノオ サクラソウ科

2009	C
2017	C
2023	C

Lysimachia barystachys Bunge

【種の特性】多年生草本。乾いた半自然のススキ草原に生える。

葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。ススキ群目。[G] ススキ群目。

【分布】本州（関東以西）・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】かつての牧の草地に多かったと推定される。

【保護対策】半自然のススキ草原の保全。かつて草地であったところの雑木林を掘起こしたところ、埋土種子から復活した例がある。

【文献】千植誌 2003：436, 439

(大場達之／天野誠)



C オオツルコウジ サクラソウ科

2009	C
2017	C
2023	C

Ardisia montana (Miq.) Siebold ex Miq.

【種の特性】常緑小低木。ヤブコウジに似て大形。地下に長い根茎がある。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。ヤブコウジとツルコウジの雑種という説もある。[Ch] カクレミノースダジイ群団。

【分布】本州（千葉県以西）・伊豆諸島・琉球（奄美諸島）。

【県内の状況】房総丘陵の南部の照葉樹林に見られる。

【保護対策】自然的な照葉樹林の保全。

【文献】千植誌 2003：435, 438

(大場達之／天野誠)



C クサレダマ サクラソウ科

2009	C
2017	C
2023	C

Lysimachia vulgaris L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Kunth

【種の特性】多年生草本。自然度の高い湿地に生える。

葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア北部。

【県内の状況】下総台地の湿地と、房総丘陵北部の谷津などに分布する。

【保護対策】自然的な湿地の保全。

【文献】千植誌 2003：436, 439

(大場達之／天野誠)



C	ハイハマボス	サクラソウ科	2009	C
			2017	C
			2023	C

Samolus parviflorus Rafin.

【種の特性】多年生草本。河岸の大水のときに冠水するナルコスゲ群集のなかや、ヨシ湿原の周囲、湿った寺院のコケの多い庭などに見られる。葉は単葉で互生しやや淡い緑色で光沢がある。虫媒で、水散布。[H]

【分布】北海道・本州。北米。

【県内の状況】養老川と夷隅川、ため池の岸、陰湿な庭などにみられる。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】大場達之・平田和弘 1998 千葉県ハイハマボス. 千植誌資料 11: 75-76 / 千植誌 2003: 436, 440

(大場達之/天野誠)



C	フナバラソウ	キョウチクトウ科	2009	B
			2017	B
			2023	C

Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren & Decne.

【種の特性】多年生草本。茎は直立し高さ 40 ~ 80cm。葉は単葉で対生し下面に軟毛が密にある。花は6月に咲き濃紫色。虫媒で風散布。[G] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】かつては農地周辺の草を刈る土手斜面に多かったが、急速に減少している。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 464, 455

(大場達之/天野誠)



C	シタキソウ	キョウチクトウ科	2009	C
			2017	C
			2023	C

Stephanotis lutchuensis Koidz. var. *japonica* (Makino) Hatus.

【種の特性】常緑藤本。モミ林・照葉樹林などの林縁に生える。葉は単葉で対生。花は6月に咲き、花序は枝の上部の葉腋から出て花茎の先に2~3個の白い香りのある花をつける。虫媒で、風散布。[M] カクレミノースダジイ群目。

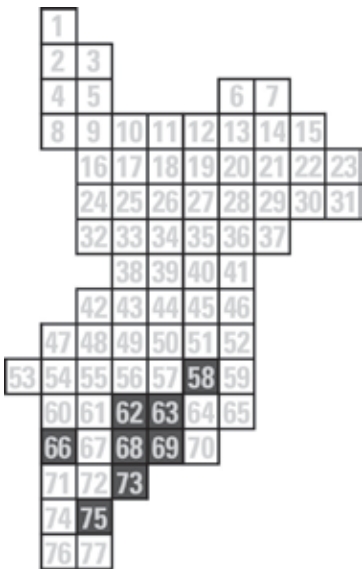
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の南部に生え、北限は大多喜町。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003: 464, 456

(大場達之/天野誠)



C	クサナギオゴケ	キョウチクトウ科	2009	C
			2017	D
			2023	C

Vincetoxicum katoi (Ohwi) Kitag.

【種の特性】中型の多年生草本。茎は直立し高さ 40 ~ 100cm で、上部は蔓状。花は5~7月に咲き紫色。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。花の緑白色のものをシロバナクサナギオゴケ (f. *albescens* Ohwi) という。[G] ツガ群目。

【分布】本州（千葉県・静岡県・愛知県など）。箱根などの新しい火山地帯には分布しない。千葉県は分布の東限。

【県内の状況】佐倉市から市原市にいたる千葉県中部に分布するほか富津市から分布が記録されている。

【保護対策】自生地の林床の遷移を抑える

【文献】千植誌 2003: 464, 455

(大場達之/天野誠)

